令和６年度版

生活支援体制整備事業

# 取組事例集

鹿児島県　高齢者生き生き推進課

# はじめに

本県において、市町村での生活支援サービス提供の体制づくりを推進するため、“生活支援体制整備事業”の取組事例集を作成しました。

取組の経緯や行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割も可視化していますので、今後の取組にぜひご活用ください！

# 目次

令和６年度版から掲載の新事例には NEW がついています。

1　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2　目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
3　取組事例

01 あさがお、ひまわり、かすみ草（鹿児島市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
02 帯迫老人クラブ（鹿児島市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
03 地域の助け愛隊（わがえへんのたすけあいたい）（鹿児島市）・・・・・・・5
04 まごころふぁーむ（鹿児島市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
05 みんサポかもいけ（鹿児島市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
06 恵の会（鹿児島市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
07 桜五　ささえたい（鹿児島市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
NEW 08 支えあい活動団体　宮たすけ隊（鹿児島市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
NEW 09 「ちょこっと世話やき隊」による地域支援活動（阿久根市）・・・・・・・・・11
10 「大川内地区ドライブサロン買い物バス」で買い物支援（出水市）・・・・・・・・・・・・・・12
11 「米ノ津東地区コミュニティ協議会スマイル体操教室」で介護予防（出水市）・・・・・・・13
12 男性限定サロン「男ん衆で楽しも会」（出水市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
NEW 13 おじさんたちのうんまカレー食堂（出水市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
14 「仮屋おたすけ会」による生活支援（指宿市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
15 「生活お役立ち情報　食の宅配サービス」 作成と買物支援による活用（指宿市）・・・17
16 西之表市高齢者支援協議会（西之表市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
17 喜入自治会　見守り隊（薩摩川内市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
18 誰もが活躍できる地域（薩摩川内市亀山地区 小倉自治会）（薩摩川内市）・・・・・・・20
19 地域の未来のため、私たちがはじめたこと（上甑 中野自治会）（薩摩川内市）・・・・21
20 本俣自治会のささえ愛（住民主体の助け合い）（薩摩川内市）・・・・・・・22
21 陽成地区　（上大迫自治会）（薩摩川内市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
22 地域のヒーロー（祁答院町藺牟田地区　湯之元自治会）（薩摩川内市）・24
NEW 23 野菜づくりグループ「青葉会」（薩摩川内市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
NEW 24 田崎自治会「見守り会議／住民支え合いマップ」（薩摩川内市）・・・・・26
NEW 25 湯田地区～誰もが気軽に集まることのできる場～
（湯田地区コミュニティ協議会）（薩摩川内市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
NEW 26 土橋地区公民館　買い物ツアー（日置市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
NEW 27 ほっと♡サービス（曽於市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
NEW 28 三郷ドリーム♪ほっとサービス（霧島市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
29 「困りごと支え隊」「かせとも」による生活支援（いちき串木野市）・・31
NEW 30 移動販売車「ぐりんぐりん号」による買い物支援（いちき串木野市）・32
31 西町ささえあい隊（さつま町）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
NEW 32 よりあい処「幸」（さつま町）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
33 「中種子町社会福祉協議会」による買い物支援（中種子町）・・・・・・・・・35
NEW 34 星原校区協議体「たすけ愛体」の活動について（中種子町）・・・・・・・・・・36
35 幾里はまゆう（龍郷町）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37

☑ 生活支援 ☐ 見守り ☐ 協議体
☐ 買物支援 ☐ 配達 ☐ その他
☐ 移動支援 ☐ 居場所づくり

# 01 あさがお、ひまわり、かすみ草

鹿児島市　すこやか長寿部　長寿あんしん課

## 地域の概要

市街地周辺に多くの住宅団地が開発されたが、子世代の転出などによって人口減少や高齢化が顕著となっており、店舗等の減少やバス便の減少など、様々な地域課題が生じている。
市総人口も減少傾向。
高齢化率27.3%（R2時点）

## 取組のきっかけ

「住み慣れた地域で安心して老後をくらしたい」「ちょっとした手助けがあれば自立した生活ができるのに」1986年に組合員の声から始まった助け合い、支え合いの活動。

## 取組の目的

- 会員同士の心のふれあいを大切に、おたがいを尊重し、思いやりの態度を忘れないように心がける
- 活動会員は「資格がなくてもできることを」「できるときに」「すこしでもお役に立てれば」という気持ちで活動
- 自立を妨げることがないように気を付け、援助希望会員ができないこと、困っていることを手助けする

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 昭和61年 | 生活協同組合コープかごしまの15周年記念のひとつとして支えあい活動団体が発足し、助け合いの活動が始まる |
| 平成28年 | 市の「生活支援支え手育成モデル事業」に申請 |
| 平成31年 | 活動会員4名がみんサポ応援講座（支えあい活動従事者研修会）を受講。 |
| 平成31年 | 鹿児島市支えあい活動補助金の申請を行う |
| | 活動会員のサポートとして、勉強会（月1回）、交流会（年2～3回）を実施 |
| | また、定期的に活動会員登録説明会を開催し、活動会員を利用人数の倍の人数になることを |
| | 目標として日々活動している |

## 活動の概要

**◆活動内容**：　調理、掃除、ごみ出し、洗濯、買い物、庭の手入れ、外出付添、衣類整理
**◆活動範囲**：　**あさがお**→市内北部地域、**ひまわり**→市内中部地域、**かすみ草**→市内南部地域
**◆利 用 料**：　700円/1時間（年会費：1,000円）
**◆対 象 者**：　会員
**◆構 成 員**：　**あさがお** 30名、**ひまわり** 25名、**かすみ草** 38名（R4年度）
**◆利用人数**：　**あさがお** 38名、**ひまわり** 30名、**かすみ草** 28名（R4年度）
**◆活動に関わった人・団体**
・コープくらし助け合いの事務局と連携・協働　（利用調整等事務の一部委託）
・活動会員のサポートとして、活動事例や介護保険、傾聴、認知症等を学んだり、交流する場として年４回の学習交流会を開催

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕
- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報(HP等に事業内容掲載)
- 担い手育成
（支えあい活動従事者研修会実施）

〔SCとしての役割〕
- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕
- 利用者の言葉が励みになる。
特に活動員は直接的に感謝を受け取れるので、活力になる。
- 利用者の方に笑顔が増えるなど変化を感じとることができる。

〔課題〕
- 活動の担い手を増やすこと。
- 活動時間外の活動依頼もあり、活動員が日程を合わせる場合があること。

☑ 生活支援 ☐ 見守り ☐ 協議体
☐ 買物支援 ☐ 配達 ☐ その他
☐ 移動支援 ☐ 居場所づくり

# 02 帯迫老人クラブ

鹿児島市　すこやか長寿部　長寿あんしん課

## 地域の概要

吉野は人口増加傾向で、年少人口比率が高い。土地区画整理が進んでいる区域を中心に良好な生活環境が形成されつつある一方、道路などの生活基盤が未整備地域もある。
人口約5.1万人。高齢化率29.5%

## 取組のきっかけ

10数年来休止していた老人クラブを平成28年に帯迫老人クラブとして復活。友愛訪問や奉仕活動を通じて、地域に貢献したり、関わりができることで、人生をより豊かなものにできると考え、友愛訪問活動の延長線上での生活支援活動を組織化した。

## 取組の目的

- できる活動・参加しやすい活動を通じた会員本人の生きがいづくり
- 超高齢社会における地域での老人クラブ活動の役割
- 元気なうちは支える側としてできる範囲で活動することで、地域への貢献はもちろん、自分の生きがいにもなる
- 「やってよかった活動」を合言葉にして活動

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 平成28年12月 | 老人クラブの復活（帯迫老人クラブとして始動） |
| 平成29年８月 | 定例会、臨時役員会で説明、話し合いを重ね、有志で支えあいグループを結成 |
| 平成29年９月 | 市のモデル事業に申請し、これまで友愛活動として安否確認、話し相手などを生活援助活動にあわせるボランティア活動を開始 |
| 平成31年４月 | 市の新規事業「支えあい活動補助金」を申請 |
| 令和元年７月 | 地域内の全高齢者（75歳以上の方）に活動の広報を兼ねてアンケート（ニーズ調査）実施し民生委員・児童委員協議会とも話し合いを行った |
| | 高齢者宅の屋内外の清掃、ゴミ出し、話し相手等の支援を中心に活動中 |

## 活動の概要

**◆活動内容**：　ゴミ出し、話し相手、清掃・掃除、庭の清掃・草取り、病院付添い、調理支援、電球交換等

**◆活動範囲**：　鹿児島市吉野町帯迫地域

**◆利 用 料**：　無料（原則として無償ですが、利用者の要望により有償利用も考慮されます。料金については応相談となります。）

**◆対 象 者**：　帯迫地域内の高齢者等（友愛訪問を通じて支援が必要と思われた方）

**◆構 成 員**：　16名

**◆利用者数**：　10名(令和4年度)

支えあい活動補助金をはじめ、各種助成事業等を活用して、
老人クラブの財源を確保しつつ、地域に関わる活動へつなげている。

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕
- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報(HP等に事業内容掲載)
- 担い手育成
  （支えあい活動従事者研修会実施）

〔SCとしての役割〕
- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕
- ８年間活動することによって、地域に定着することができている

〔課題〕
- 他の高齢者クラブや様々な地縁団体にも活動が広まって欲しいこと。
- 支援を必要とする方が気兼ねなく、支援を受けられるよう、本人や家族の理解を得ることが重要。

☑ 生活支援 ☐ 見守り ☐ 協議体
☐ 買物支援 ☐ 配達 ☐ その他
☐ 移動支援 ☐ 居場所づくり

# 03 地域の助け愛隊（わがえへんのたすけあいたい）

鹿児島市　すこやか長寿部　長寿あんしん課

## 地域の概要

小山田町は市の北西部に位置し、自然豊かな地域。少子高齢化が進み人口約2,000人、高齢化率が50%を超え空き家や耕作放棄地が多くなっている。

今後、担い手の育成や「お互い様」の心で支え合う地域環境作りが課題となっている。

## 取組のきっかけ

10年後地域の我々の生活環境はどうなっているだろう。今以上に空き家が増え、地域の防災面や景観なども心配。独居高齢者も増えて、庭先の草刈りなどの手入れや、照明器具の取り換え・電池交換などちょっとした困りごとで不自由な思いをする方が多くなると考え、元気な今から互いに支えあう関係の構築、共助の志を育もうと声を掛け、賛同者を募った。

## 取組の目的

- 地域の皆さんが「安心」して過ごせたらとの思いで活動
- 相談は原則として断らない
- 同じ町内会なので顔見知りで安心。「お互い様」の気持ちを大切にしている（近助）
- 自分たちの生活環境は自分たちで守る！

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 平成24年５月 | 東日本大震災を機に自分たちができる事を何かしないと！と被災地支援を目的に地域内の膨大な耕作放棄地を活用し、お米をつくり、販売益で支援しようと「どんこ村開拓団」の設立 |
| | 地域内の耕作放棄地の再生、農業体験イベントも並行して実施（田植え、案山子づくり、稲刈り、餅つき大会、小川での魚釣り）し、都市部の子供たちへの情操教育の一助 |
| | 多世代交流により、地域の高齢者の生きがいづくりにもつながった |
| | これらの取組から、地域の事を語る機会が増え、絆が深まり、地域づくり活動の原点となった |
| 平成29年11月 | 地域の皆さんが安心して暮らせる地域を目指すため『地域(わがえへん)の助け愛隊』設立 |
| 平成30年４月 | 市のモデル事業『生活支援支え手育成モデル事業』に申請 |
| 平成31年４月 | 市の新規事業「支えあい活動補助金」を申請 |
| 平成31年６月 | 鹿児島市支えあい活動従事者研修会(現みんサポ応援講座)を受講 |
| | 地域住民で協力しながら高齢者宅の庭の草払い等を中心に生活支援活動を実施 |

## 活動の概要

**◆活動内容**：　草刈り、剪定、家具家電の移動、家屋の簡単な修繕・補修・ゴミ出し等
（営利目的・専門作業・危険作業は行わない。）
原則活動は複数人で実施⇒安全確認も含め生活空間の隣接部までが活動範囲

**◆活動範囲**：　小山田町上町内会

**◆利 用 料**：　作業員一人につきワンコイン（500円）

**◆対 象 者**：　地域内住民

**◆構 成 員**：　メンバー50名

**◆利用人数**：　2017.12月～2022年度末まで延べ68戸に延べ375人で対応

息の長い活動にするため補助制度に頼らない組織に！！
いつかは支えられる側となる「お互い様」の繰り返し。
支えあう地域づくりを次世代へ継承していきたい。

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕
- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報(HP等に事業内容掲載)
- 担い手育成
（支えあい活動従事者研修会実施）

〔SCとしての役割〕
- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕
- 活動をすることによって、利用者、活動者共に笑顔が増えたこと。

〔課題〕
- 特になし

☑ 生活支援 ☐ 見守り ☐ 協議体
☐ 買物支援 ☐ 配達 ☐ その他
☐ 移動支援 ☐ 居場所づくり

# 04 まごころふぁーむ

鹿児島市　すこやか長寿部　長寿あんしん課

## 地域の概要

吉野は人口増加傾向で、年少人口比率が高い。土地区画整理が進んでいる区域を中心に良好な生活環境が形成されつつある一方、道路などの生活基盤が未整備地域もある。人口約5.1万人。高齢化率29.5%

## 取組のきっかけ

大明丘・吉野町で野菜の販売をしている中で、坂の多い地域で買い物が大変そうな高齢者が多いと感じ、買い物に困っている高齢者に新鮮な野菜や食材を届けられないかと考えるようになった。また、野菜の販売を通じて出会う地域高齢者の他の困り事にも気づき、家族や友人と生活支援のボランティア団体を立ち上げた。

## 取組の目的

- 困ってる人が喜んでくれる仕事をしたい。
- 高齢者でも、障害があっても、暮らせる地域をつくりたい。
- 困っている方の駆け込み寺のような存在になればと思っている。

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 平成25年頃～ | 野菜の販売所、野菜の移動販売を開始 |
| | 野菜の販売を通じて地域の高齢者と関わる中で、様々な生活課題に気づく |
| 令和３年８月 | 大明丘地区で高齢者に対する買物支援や居場所づくりをしたいとSCへ相談 |
| 令和３年12月 | 一緒に活動をする知人と『みんサポ応援講座(支えあい活動従事者研修会)』を受講 |
| 令和４年４月 | 支え合い活動団体発足、市の新規事業「支えあい活動補助金」を申請 |
| 令和４年５月 | 地域住民へ活動を知ってもらうため、広報チラシを作成し配布 |
| 令和４年６月 | チラシを見た地域の高齢者から買い物の支援依頼があり、生活支援活動がスタート |
| 令和４年６月～ | 支援を受けた高齢者から活動が口コミで広がり、ゴミ出し、草刈り等の支援をスタート |

## 活動の概要

◆活動内容：　ゴミ出し、買物代行、草刈り、庭の手入れ、外出付添、家具移動、電球交換など

◆活動範囲：　鹿児島市吉野地区、大明丘地区、他必要に応じて

◆利 用 料：　1,000円/1時間（応相談）

◆対 象 者：　地域内の高齢者等

◆構 成 員：　4名

◆利 用 者：　7名（令和4年度）

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕
- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報(HP等に事業内容掲載)
- 担い手育成
  （支えあい活動従事者研修会実施）

〔SCとしての役割〕
- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕
- 手を差し伸べられたらの気持ちではじめたが、簡単な作業でも感謝の気持ちを頂き、元気をもらえた。

〔課題〕
- 広報活動の難しさ
  （チラシ掲載が断られるケースもあり）

☑ 生活支援　☐ 見守り　☐ 協議体
☐ 買物支援　☐ 配達　☐ その他
☐ 移動支援　☐ 居場所づくり

# 05　みんサポかもいけ

鹿児島市　すこやか長寿部　長寿あんしん課

## 地域の概要

戦後まちづくりが始まり、昭和２０年代にできた旧住宅街と昭和４０年代に造成された新興住宅街からなる地域。平成８年に県庁移転。
高齢化率は36.7%

## 取組のきっかけ

個々に奉仕活動をしていた人が集まり、趣味活動の講座等もしていた。1名がみんサポ応援講座を受講したことがきっかけで、勉強会につながり、支え合い活動への意識が高まっていった。そこから校区コミュニティ協議会で具体化し組織化した。

## 取組の目的

- 住み慣れた地域において社会から孤立することなく安心して暮らすことのできる地域づくり
- 人々が集う、活気と魅力のある地域づくり
- お互いを思いやる地域づくり

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 令和元年 | 1名がみんサポ応援講座（支えあい活動従事者研修受講） |
| 令和２年２月 | 受講者から仲間とともに詳しい話を聞きたいとSCに連絡がある。有志が集まる場にSCも参加し、活動に向けた話合いがはじまる |
| 令和２年８月 | SCがコミュニティ協議会　社会教育部会主催「成人学級」　にて「支えあい事業について」と題して1時間支えあい啓発を行う。参加者15名。 |
| 令和２年10月 | 有志にて支えあい活動を始めている。活動が軌道に乗れば補助申請を検討したい |
| 令和３年２月 | 鹿児島市支えあい活動補助金の申請を行う |
| 令和３年２月 | 鴨池校区コミュニティ協議会の事務局を支えあい活動団体みんサポかもいけの事務局とする。 |
| | 支えあい活動の広報として、鴨池校区コミュニティ協議会の発行するLLかもいけにチラシを掲載。LLかもいけのポスティング作業を活動員が見守り活動の一環として開始する。 |
| 令和３年４月 | LLかもいけのチラシを見た方から、電球交換や草払いなどの依頼がくる。 |
| 令和３年 | 鴨池校区コミュニティ協議会の事務局から登録している希望者へ週3回午前中（月・水・金）に個別の電話連絡を行う、見守りコール開始。必要に応じて、支え合い活動団体へのマッチングを行う。 |

## 活動の概要

**◆活動内容**

見守りコール、校区情報誌ポスティング時の見守り（毎月全戸配布）
高齢者110番：困りごと等の相談対応・生活支援（庭の手入れ、ゴミ出し等）

**◆利用料金**：　1時間500円（活動員1名につき）

**◆対 象 者**：　校区内の地域住民（特に高齢者）

**◆活動会員**：　35名（男性31名、女性4名）

調整役（6名）・高齢者１１０番（10名）、見守りコール（4名）・見守りポスティング（30名）

**◆活動にかかわる人**

〇校区コミュニティ協議会：【事務作業】と【問い合わせ窓口】のサポート
・校区情報誌への掲載、サポートマップ作成等、ネットワークや広報活動
・校区コミュニティ協議会事務局：月・水・金曜日の9時～12時　高齢者１１０番、見守りコールの窓口対応と事務作業全般
〇民生委員児童委員協議会、消防分団

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕
- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報(HP等に事業内容掲載)
- 担い手育成
  （支えあい活動従事者研修会実施）

〔SCとしての役割〕
- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕
- 活動を通して、コミュニケーションの輪が広がることで新たな仲間が増える。
- 利用者と接することで、活動員に充実感が生まれる。

〔課題〕
- 若手の担い手の加入

☑ 生活支援 ☐ 見守り ☐ 協議体
☐ 買物支援 ☐ 配達 ☐ その他
☐ 移動支援 ☐ 居場所づくり

# 06 恵の会

鹿児島市　すこやか長寿部　長寿あんしん課

## 地域の概要

市の南部に位置する谷山地区は、団地においては同世代が一斉入居しており高齢化が進む一方、子育て世帯等の流入もあり、人口は横ばいで高齢化率は24.5%と低い。

## 取組のきっかけ

住み慣れた地域でいつまでも暮らしていくことができるようにサポートしたいという思いから、町内会でともしびグループ（高齢者への声掛け、安否確認等）として活動を開始。活動を通じて、ちょっとした困りごとを抱えている高齢者が多いことに気づき、見守り活動と一緒に家事等のお手伝いを始めた。

## 取組の目的

- 自分でできることは一緒に取り組んでもらうようにしている
- 活動の入り口は目の前の人を笑顔に変える会話

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 平成25年頃 | 住み慣れた地域でいつまでも暮らしていくことができるようにサポートしたいという思いから、町内会でともしびグループとして活動を開始。<br>ともしび 活動をしていく中で、ちょっとした困りごとを抱えている高齢者が多いことに気づき、見守り活動と一緒に家事等のお手伝いを始める。 |
| | ボランティア団体として社会福祉協議会へ登録。 |
| 平成29年11月 | 市の「生活支援支え手育成モデル事業」へ登録。 |
| 平成31年４月 | 鹿児島市支えあい活動補助金の申請を行う |
| 令和５年８月 | 遠方からの相談も、困っていると思うと断ることができない。相談の方の地域で活動員になってくれそうな方を探すが、その地域で高齢化が進んでいる状態。 |

## 活動の概要

**◆活動内容**：調理、掃除、ごみ出し、洗濯、買い物、庭の手入れ、外出付添、衣類整理、家具移動など

**◆活動範囲**：谷山地域

**◆利 用 料**：無料

**◆対 象 者**：地域内住民

**◆構 成 員**：男性1名、女性3名（計4名）

**◆利用人数**：7名

**◆活動に関わった人・団体**

本人・近隣住民・民生委員児童委員協議会

地域包括支援センター・ボランティアグループ「すまいる」

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報(HP等に事業内容掲載)
- 担い手育成
  （支えあい活動従事者研修会実施）

〔SCとしての役割〕

- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 利用者から頼りにされることで、活動にやりがいを感じる
- 活動が健康維持につながり、介護予防になっている。

〔課題〕

- 問い合わせが多く、活動の規模により、場合によっては対応が難しい場合もあること。

☑ 生活支援 ☐ 見守り ☐ 協議体
☐ 買物支援 ☐ 配達 ☐ その他
☐ 移動支援 ☐ 居場所づくり

# 07 桜五　ささえたい

鹿児島市　すこやか長寿部　長寿あんしん課

## 地域の概要

標高80ｍほどの高台にある造成から50年ほど経つ団地。高齢化率26.5%
団地内には大学病院や教育施設をはじめとした生活環境が整っている。

## 取組のきっかけ

高齢者が「安心して住み続けられる地域」を目指して、老人クラブ内で検討。有志で話し合いを重ね、身の回りのちょっとした困りごとを、できるときに、できる人が、できることをお手伝いすることにした。

## 取組の目的

- 高齢になっても自立心を持って自宅での生活を続けられるように、できないところを支援していきたい
- 地域を支えるのは地域の高齢者。「できない」を自分達の「できる」で支えたい
- できるときに、できる人が、できることで支えあうことが、住みやすい地域につながる
- 地域とのつながりを持つことの大切さを知ってもらいたい

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 令和元年６月 | 老人クラブ有志2名でみんサポ応援講座受講。 |
| 令和元年12月 | 市単老会長交流研修会にて支えあい活動補助金紹介と帯迫老人クラブの事例発表を聞く |
| 令和２年２月 | 支えあい活動補助金について生活支援コーディネーターの説明を聞き、メンバーで検討していく |
| 令和２年３月 | 支えあい活動補助金の申請準備を行う |
| 令和２年４月１日 | 老人クラブの有志にてボランティアグループを設立。支えあい活動補助金申請 |
| 令和２年５月16日 | ボランティア団体として社会福祉協議体へ登録。 |
| 令和３年５月 | 代表交代（設立時から一緒に活動していたメンバーに代表引継ぎ） |
| | 利用者が亡くなったり、転居された方もいた為、活動回数は少なくなっている。町内会だよりで活動を紹介している。活動員も高齢化してきており、後継者育成も必要となってきている |

## 活動の概要

**◆活動内容**：掃除、ごみ出し、買い物、庭の手入れ、外出付添、家電・家具の移動など
**◆活動範囲**：鹿児島市桜ヶ丘5丁目地内
**◆利 用 料**：無料
**◆対 象 者**：地域内の高齢者世帯
**◆構 成 員**：5名（男性3名、女性2名）
**◆利用人数**：6名
**◆活動に関わった人・団体：老人クラブ**
民生委員
地域包括支援センター

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕
- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報(HP等に事業内容掲載)
- 担い手育成
  （支えあい活動従事者研修会実施）

〔SCとしての役割〕
- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕
- 利用者から感謝されることが活動の励みになる。

〔課題〕
- 活動員の高齢化
- 支えあい活動の輪の広げ方

☑ 生活支援 ☐ 見守り ☐ 協議体
☑ 買物支援 ☐ 配達 ☐ その他
☑ 移動支援 ☐ 居場所づくり

# 08 支えあい活動団体　宮たすけ隊

NEW

鹿児島市　すこやか長寿部　長寿あんしん課

## 地域の概要

団体がある宮之浦町は、高齢化率は38.2%である。独居高齢者や高齢者のみの世帯が増加している事から、生活支援のニーズが高い。また、自治会加入世帯数は年々減少している。立地的にも買い物や通院は車が必要だが、公共交通機関は不便な地域。

## 取組のきっかけ

地域の高齢化が進むなか、高齢者が安心して暮らせる環境を整えるため、自治会で支えあい活動を実施できないかと考えました。また、活動の運営に必要な補助金についても調査を進めました。さらに、自治会の加入者が減少するなか、支え合い活動が加入促進の一助となるのではないかと期待し、ボランティア団体の設立に至りました。

## 取組の目的

- 地域の高齢者が安心して暮らせる環境整備
- 自治会の活性化と加入促進
- 持続可能な支援体制の確立
- 住民間の交流の促進
- 高齢者の社会参加

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 令和5年10月 | 公民館長から生活支援コーディネーターへ相談 |
| 令和5年11月 | 校区の公民館長会で地域の支えあいに関する勉強会を開催 |
| 令和5年12月 | 地域住民3名でみんサポ応援講座を受講 |
| 令和6年1月 | 福祉アドバイザーを中心に地域住民向けの地域の支えあいに関する勉強会を開催 |
| 令和6年3月 | 活動に賛同した住民で支えあい活動団体設立に向けた話し合い |
| 令和6年4月 | 鹿児島市支えあい活動団体登録 |
| 令和6年5月 | 支えあい活動（訪問型住民主体サービス）を開始 |

## 活動の概要

鹿児島市の総合事業における訪問型住民主体サービスとして、地域高齢者の生活支援を行っています。主な活動内容は、買物や通院の外出同行、買物代行、庭の手入れをおこなっています。
活動の8割は外出同行で、その移動支援は活動員さんの自家用車を使って、利用者宅からお店や病院まで送り、その方の状況に応じて店内や病院内も付き添い、終わったらまたご自宅までお送りするという内容です。

**◆活動内容**：　外出付添、ゴミ出し、買物代行、草刈り、庭の手入れなど

**◆活動範囲**：　鹿児島市吉田圏域宮校区：吉水、平野、上河原、宮西を中心とした範囲

**◆利 用 料**：　500円/1時間（庭の手入れは1,000円/1時間）

**◆対 象 者**：　地域内の高齢者等

**◆構 成 員**：　15名

**◆利 用 者**：　11名（令和6年9月時点）

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕
- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報(HP等に事業内容掲載)
- 担い手育成
  （支えあい活動従事者研修会実施）

〔SCとしての役割〕
- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕
- 地域高齢者の支援の選択肢が増えた。
- 自治会の役割が増えた。
- 自治会の加入者が増えた。

〔課題〕
- 地域外からの依頼への対応。
- 専門職との連携。
- 活動に対する地域住民の理解。

☑ 生活支援 ☑ 見守り ☐ 協議体
☑ 買物支援 ☑ 配達 ☐ その他
☐ 移動支援 ☑ 居場所づくり

# 09 「ちょこっと世話やき隊」による地域支援活動

NEW

阿久根市　介護長寿課　地域包括支援係

## 地域の概要

阿久根市は県北西部に位置し、北部に長島町、東部に出水市、南部に薩摩川内市が隣接している。
人口18,147人、77集落があり、高齢化率は43.37%と県の平均値よりも高く、年少人口の割合は県平均値よりも低い状況である。

## 取組のきっかけ

高齢者のみの世帯の増加や人口減少により、買い物や移動といった日常生活に不可欠なサービスの利用が困難になり、また、担い手不足により地域の商店は閉店し、これまで家族の支援や近隣住民での助け合いでできていたことができなくなるなど、高齢者を取り巻く生活課題が増えてきたことから、生活支援に関する「ボランティアグループ養成講座」を開催。
受講者の中から生活支援を行う有償ボランティア『ちょこっと世話やき隊』を発足した。

## 取組の目的

- 地域住民の支え合い活動の推進
- 日常生活の困りごとに対する支援
- 支援者(世話やき隊)の方々の生きがい・やりがいづくり

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 平成31年1月 | 阿久根市「福祉のつどい」に参加された市民の方々へ地域づくりについてのアンケートを実施 |
| 平成31年3月 | アンケートから地域活動、地域づくりに興味のある方を対象に「阿久根市地域づくり勉強会」を開催 |
| 令和元年8月<br>令和2年1月 | 生活圏域に分かれ、地域の実情にあった「阿久根市地域づくり勉強会」をそれぞれ開催（全４会場） |
| 令和2年7月 | 社会福祉法人の協力のもと、買物支援×介護予防の取り組み「ドライブサロン」が始まる |
| 令和2年9月 | 生活支援に関する「ボランティアグループ養成講座」を開催（全５回講座） |
| 令和3年1月 | 地域支援活動『ちょこっと世話やき隊』を発足 |
| 令和4年1月 | ちょこっと世話やき隊連絡会での話し合いがきっかけで「ちいき食堂」が３ヶ所開設 |
| 令和5年3月 | ちょこっと世話やき隊の中から、鶴川内地区を中心に刃物研ぎを通して地域の困りごとに対応する『楠本会』を発足 |
| 令和7年2月 | ちょこっと世話やき隊連絡会の話し合いの中で「買い物代行」「付き添い支援」を支援内容に追加 |

## 活動の概要

- **支援内容**
  【屋内作業】①家事代行　②布団干し　③電球交換　④敷物(絨毯など)の敷き替え
  【屋外作業】①草払い　②草取り　③ごみ出し　④庭木の剪定
  【そ の 他】①軽微な修繕　②刃物研ぎ　③買い物・付き添い支援　④その他生活支援
  ※30分の支援に対し300円を利用者に負担していただく。
  その他支援内容に応じて利用者負担

- **支援対象者**
  ・一人暮らしの高齢者
  ・高齢者のみの世帯

- **活動に関わった人・団体**
  生活支援コーディネーター、
  行政、民生委員

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

- 地域課題の把握
- 支援が必要な方との相談・調整
- 世話やき隊員の活動に関する相談
- 世話やき隊員との連絡会の企画・開催
- 資源開発の検討・創出
- 事業主(行政)との情報共有
- 社協だよりによる周知広報

【活動の流れ】

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕
個別ケースの地域ケア会議において「ちょこっと世話やき隊」による支援の提案ができるなど、相談体制の充実が図れた。

〔課題〕
- 世話やき隊員の不足
  ・各集落に世話やき隊員がいることにより、見守り体制や支援が行き届く
  ・世話やき隊がいない集落への周知
- 担い手不足
  ・次世代の世話やき隊員の確保

☐ 生活支援 ☑ 見守り ☐ 協議体
☑ 買物支援 ☐ 配達 ☐ その他
☑ 移動支援 ☑ 居場所づくり

# 10 「大川内地区ドライブサロン買い物バス」で買い物支援

出水市　保健福祉部　いきいき長寿課

## 地域の概要

出水市の北東の山間部に集落が点在する大川内地区は、人口635人、高齢化率57.95%（R5.8.1現在）で、車がないと生活も困難である。地区内には買い物する場がなく、友人との行き来も減少して住民の孤立が危惧されていた。

## 取組のきっかけ

地区コミュニティ協議会のアンケート調査で、買い物の場、憩いの場がほしいという要望が多かった。生活支援体制整備事業を取り組むに当たり、社会福祉法人から車の提供をしていただける地域資源があると判明し、この地区で買い物バス運行を実施できるように、地区コミュニティ協議会を中心に第２層協議体が発足し、事業を取り組むことになった。

## 取組の目的

●交通弱者への買い物の支援
●高齢者の一人世帯、高齢夫婦世帯の見守り活動
●見守りをかねてのコミュニティづくり

大川内地区コミュニティ
協議会ホームページ

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 平成29年12月 | 大川内地区で拠点・買い物に関するアンケートを実施。買い物の場、憩いの場の切望が判明。 |
| 平成30年６月 | 社会福祉法人から車の提供してもらい、買い物バスとして生活支援体制整備事業ができないか構想。 |
| 平成30年８月 | 大川内地区コミュニティ協議会で事業を進めていくことを決定し、SCが地区内の65歳以上の一人暮らし及び高齢夫婦のみの世帯を対象に聞き取り調査を開始。 |
| 平成30年９月 | 大川内地区コミュニティ協議会健康づくり部会にて買い物バス運行地域や方法など検討する。 |
| 平成30年11月 | 大川内・東出水地区高齢者生活支援体制整備推進協議会を発足。 |
| 平成30年11月 | 車両を提供する２社会福祉法人、社協、コミュニティ協議会、行政、SCで、薩摩川内市入来地区での買い物支援事業を視察研修実施。 |
| 平成30年11月 | 出水市地域公共交通会議にて買い物バス運行について周知、注意事項等を教授。 |
| 平成30年12月 | 関係機関参加で実施内容を検討し、ドライブサロンの要綱、送迎マニュアル、手引きをまとめる。 |
| 平成31年１月 | 買い物バスドライブサロン試行運転、実施の修正を行う。 |
| 平成31年４月 | 大川内地区買い物バス、ドライブサロン事業を本格運行。 |

## 活動の概要

出水市、社会福祉法人、地区コミュニティ協議会、社会福祉協議会が協働し、高齢者サロン活動の一環として買い物支援を実施している。

地区コミュニティ協議会：事業主体として登録者の利用状況を管理、運営。
社　会　福　祉　法　人：車両と運転手、スタッフを提供。
社　　協　　：高齢者サロンとして活動を支援、SCが同乗し、運営支援。

〔頻度・利用人数・利用者負担〕
- ２社から車両提供があり、各月１回ずつ。（第２、第３木曜）登録地域によって、コースがあり、降車は自宅前。ドライブ中の交流と目的地での買い物支援を実施。
- 利用者数は、平均７人程度。
- 利用料金無料。

〔活動に関わった人・団体〕
生活支援コーディネーター、市町村、社会福祉協議会、大川内地区コミュニティ協議会、社会福祉法人興生会、社会福祉法人鶴寿会、　自治会長、民生委員、在宅介護支援センター

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕
●２層協議体で今後の事業方針を説明
●関係団体の連携
●SCと定期的な情報共有

〔SCとしての役割〕
●地域住民の聞き取り調査
●社会福祉法人興生会、社会福祉法人鶴寿会との連携
●買い物支援についての周知と協力者の募集

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕
月に一度の買い物バスを楽しみにしている利用者が多い。買い物の利用以上に、参加者とのバスでの会話が一番の目的ととらえ、買い物バスが地域の交流の場となっている。

〔課題〕
利用登録者数の維持。現在は車両の定員としてちょうどいいが、施設入居の為地域を離れる方もおり、利用者数が減少している。新規の利用者の方への声かけが必要。

☐ 生活支援 ☑ 見守り ☐ 協議体
☑ 買物支援 ☐ 配達 ☐ その他
☐ 移動支援 ☑ 居場所づくり

# 11 「米ノ津東地区コミュニティ協議会スマイル体操教室」で介護予防

出水市　保健福祉部　いきいき長寿課

## 地域の概要

水俣市との県境に位置する米ノ津東地区は、人口6,645人、高齢化率36.12%（R5.8.1現在）で、平成26年に米ノ津東地区コミュニティ協議会を設立し、地域課題に向けて取り組む機運が高まっていた。

## 取組のきっかけ

- 地区コミュニティ協議会設立時の住民アンケート調査により、病気や健康に不安を抱えている方が多いことが判明。継続的に取り組む仕組み作りが必要であった。
- 独自の体操で効果を上げている自治会があり、その体操を広めるため、地区コミュニティ協議会で運営する体操教室を始めるに至った。

## 取組の目的

●健康寿命を延ばすため介護予防体操の実施

●自治会の垣根を越えて集まれる居場所作り

●ボランティアスタッフによる運営で総合事業通所型サービスBとして地域の通いの場づくり

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 平成26年 | 地区コミ協設立時の住民アンケート調査で、病気や健康に不安を抱えている方が多いことが判明、その解消に取り組む必要があった。 |
| 平成30年８月 | 独自の体操が効果のあった六月田下自治会の体操を他の自治会に広めるため出前講座をした。 |
| 令和元年７月 | 米ノ津東地区夏祭りに向けて週1回コミ協多目的室にて盆踊り練習会を実施。 |
| 令和元年８月 | 米ノ津東地区夏祭りの練習をきっかけに、米東地区の誰でも受け入れ可能な「スマイル体操教室」を開始。立ち上げと同時に、高齢者元気度アップポイント事業を申請。 |
| 令和元年９月 | 行政と第2層SCで佐賀県嬉野市へ総合事業通所B実施に向けて視察研修。 |
| 令和２年６月 | 体操教室会場をJA会議室に変更し、体操終了後、同敷地内のAコープで買い物の流れができた。 |
| 令和２年12月 | 参加人数が増えて、コミ協多目的室利用も復活させ、２箇所同時のとオンライン体操教室とした。 |
| 令和３年７月 | スマイル体操教室が出水市介護予防・日常生活支援総合事業通所型サービスBに認定、開始。 |
| 令和３年８月 | 誰でもいつでも体操ができるように体操動画DVDを作成。希望する自治会サロンには無償で配布。 |
| 令和３年12月 | コロナ禍によりコミ協多目的室が使用できなくなり、JA会議室のみの2部制での運営に変更。 |

## 活動の概要

出水市米ノ津東地区コミュニティ協議会が地域発の独自の介護予防体操教室を実施し、出水市介護予防・日常生活支援総合事業通所型サービスB事業として取り組んでいる。

地区コミュニティ協議会：体操教室の運営
行政：総合事業として取り組むための整備、支援
社会福祉協議会：運営支援

〔頻度・利用人数・利用者負担〕
- 週一回木曜、①９時、②10時半からの２部制で、体操、歌踊りなどを実施。
- 利用人数は各部30名、計60名程度
- 利用料金は100円

米ノ津東地区コミュニティ協議会ホームページ

〔活動に関わった人・団体〕
生活支援コーディネーター、米ノ津東地区コミュニティ協議会、JA鹿児島いずみ米ノ津事業所、社会福祉協議会、出水市包括支援センター、市民ボランティア協力者

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

●第２層協議体で活動把握、今後の事業を後押し
●総合事業通所型サービスBとしての連携
●SCと定期的な情報共有

〔SCとしての役割〕

●高齢者元気度アップポイント事業の事務手続支援
●出前講座申込受付
●SNSでの活動の広報
●総合事業通所型サービスBとしての運営支援（事務手続支援含む。）

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

●体操直後に低脂肪乳とビスケットを摂取することで筋肉の維持向上を図る。
● 3ヶ月毎の骨格筋量測定を実施。結果を表にして各自に配布。自分の筋肉量が見える化することで継続的に取り組む励みになっている。

〔課題〕

●自治会単位で体操が実施できるようにＤＶＤの配布、出前講座等を行っているが、継続して実施する自治会が少ない。

☐生活支援 ☑見守り ☐協議体
☑買物支援 ☐配達 ☐その他
☑移動支援 ☑居場所づくり

# 12 男性限定サロン「男ん衆で楽しも会」

出水市　保健福祉部　いきいき長寿課

## 地域の概要

野田町は、人口3,635人、高齢化率40.17%（R5.8.1現在）で、平成18年に出水市に合併以前はひとつの町として運営していたため、地域内で完結、まとまりある地域ではあるが、車両がないと不便な山間部もある。

## 取組のきっかけ

高齢者を対象にした活動が多数展開される中、グラウンドゴルフを楽しむ男女比は半々であるのに対し、その他の活動は、参加者の約9割が女性である。
また、高齢者訪問で、男性は女性に比べて他者とのコミュニケーションを苦手とするがゆえに、地域交流が希薄な方が多いと感じた。
そこで、男性に特化した事業を模索し、男性限定で少人数の活動を実施することとした。

## 取組の目的

●閉じこもりではないが、日中一人で過ごしている男性に外出を促し、他者との交流を通して介護予防につなげていく
●サロンの活動が高齢者同士の交流の場になり、脳の活性化や運動不足の解消に繋がる。
●定期的な活動により、生活や健康の変化に気づき、安否確認が出来る。

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 令和4年12月 | 他者との交流が希薄な高齢男性の存在が気がかりで「何か出来ないかと模索している時、ボランティアグループ《さわやか会》から活動希望の相談。 |
| 令和5年1月 | 高齢男性を対象にした新規事業案を《さわやか会》代表と検討を重ねるが、会員の年齢層が高く、《さわやか会》による活動支援は困難と判断。 |
| 令和5年2月 | 新規事業「男性の通いの場」の実施要綱（案）を作成。2層協議体である野田地区高齢者生活支援推進協議会にて説明し、全員の同意を得る。 |
| 令和5年3月 | 高齢者訪問員の協力にて対象者をリストアップ。声掛け訪問で参加者を募る。活動場所・活動ボランティアを確保。 |
| 令和5年4月 | 登録者の緊急連絡先など情報、及び緊急時も含む活動時のマニュアル作成。<br>4月28日 事業開始。大型車での送迎や健康チェックの対応に問題あり。 |
| 令和5年5月 | 軽車両でピストン送迎・コミュニティルームでの健康チェックなど問題点を修正し、5月12日、実施。 |

## 活動の概要

２層協議体が実施主体となり、社会福祉法人とボランティアが協働し、男性限定（要支援介護認定を受けていない65歳以上の男性）のドライブサロンとして外出支援、買い物支援を実施している。

２層協議体：事業主体として、登録者の利用状況を管理、運営。
社会福祉法人：車両提供、担当２層SCが運転手兼運営支援
市民ボランティア：運営支援

〔頻度・利用人数・利用者負担〕
- 月１回（第４金曜日　午前9時～13時）茶話会、体操、ドライブ、買い物を実施する。
- 利用人数　7名
- 利用料金100円

〔活動に関わった人・団体〕
生活支援コーディネーター、野田地区高齢者生活支援推進協議会、社会福祉法人双葉会、市民ボランティア協力者、鹿児島相互信用金庫野田支店（集合場所の無償提供）、社会福祉協議会

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕
●第２層協議体で活動把握、今後の事業を後押し
●SCと定期的な情報共有

〔SCとしての役割〕
●活動時、車両の運転
●毎月の活動内容の企画や連絡調整、有志への連絡、実施前日の声掛け等

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕
参加者全員が自宅の外で迎えを待ち、活動中、皆が笑顔で語り合うなど、いつも一人で過ごし、友達と呼べる仲間もいなかった方々が月に１回の「男ん衆で楽しも会」の活動を楽しんでいる。

〔課題〕
●閉じこもりがちな方に（外出して他者との交流）を促すことの難しさ。
●今後、希望者が増えた場合、事業をどのように行っていくか。協力事業者を募れるか。

☐ 生活支援 ☐ 見守り ☐ 協議体
☐ 買物支援 ☐ 配達 ☑ その他
☐ 移動支援 ☑ 居場所づくり

# 13 おじさんたちのうんまカレー食堂

NEW

出水市　保健福祉部　いきいき長寿課

## 地域の概要

当該地域は、野田地区、江内地区、荘地区で一つの生活圏域を形成しており、人口は6,097人、高齢化率は42.41%である。（R6.9.1現在）
高齢化が進んでいるが、地域のまとまりは強く、様々な事業の開催や活動への参加が積極的に行われている。

## 取組のきっかけ

令和元年に男性限定の「男の料理教室」同好会立ち上げ後、年４回の調理実習を実施している。令和５年6月、コロナが5類になった時、同好会で初めての懇親会を行った。その際、子供食堂が話題に上がり「年1回のカレーならばできる」と皆の気持ちが一つになった。

## 取組の目的

- 世代間交流（高齢者と子供たちが世代を超えて交流を図る）
- 地産地消と地域力（食材提供してくれる人・調理する人など、地域全体で子どもを育む）
- 子どもたちの記憶に残る思い出作り

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 令和５年６月 | 年１回のカレー食堂実施提案。<br>企画書作成し、出水保健所へ相談・助言を頂く。 |
| 令和５年７月 | 野田町内の農家・企業に「男の料理教室」同好会らとSCが企画書持参し、主旨説明。協力が得られる場合は連絡を頂くとする。 |
| 令和5年８月 | 食材提供お願いのポスターをスーパーなどに貼る。<br>野田小学校・中学校へ「男の料理教室」代表とSCが出向き、企画書持参で主旨説明。賛同を頂き、学年を限定するなど詳細を話し合う。 |
| 令和５年９月 | 食材調達などの寄付が寄せられ、実施を確定。 |
| 令和５年10月 | 野田小学校・中学校の保護者宛てのお知らせ（案内）文書を作成し、学校側に配布依頼。<br>「おじさんたちのうんまカレー食堂」の施行を実施し、調理時間や装う量など確認。 |
| 令和５年11月 | 参加人数がほぼ確定し、食材調達や必要な買い物など事前準備。 |
| 令和５年12月 | 第１回「おじさんたちのうんまカレー食堂」開催。<br>後日、反省会 |
| 令和６年7月 | 第２回「おじさんたちのうんまカレー食堂」開催 |

## 活動の概要

活動内容：子どもたちと高齢者で会食と音楽レクを楽しむ
食材提供の個人や企業：12か所程
提供食事：カレー＆鶏の唐揚げ
活動頻度：年１回
対象者：小学生と妹弟・中学生・保護者・教職員
参加人数：第1回目　84名
　　第2回目　140名
参加費：無料
関わった人・団体等：
　野田小学校・野田中学校
　地域の企業及び個人
　出水市役所・野田支所
　出水市社会福祉協議会
　野田食生活改善推進協議会
　男の料理教室同好会

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 事業内容の把握と助言及び安全確認

〔SCとしての役割〕

- 「男の料理教室」の地域貢献広報
- 男性の活躍の場の推進
- 世代間交流と達成感の機会の設定

♬　音楽レクリエーション
＊ボディーパーカッション
＊よさこいで「アイドル」（鳴子）
＊ペーパーオーケストラ（新聞紙）
＊プラスチックシャワー（レジ袋）

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 地域力と地域の人の温かさを知ることができた。
- 高齢男性全員がグループラインを駆使し、時代に沿った情報共有ができるようになった。
- マスコミに取り上げられたことで、活動に誇りを持ち次に向けての意欲が増した。

〔課題〕

- 食中毒への注意が最も重要。
- 学校側と日程決定の調整。
- 継続的な食材提供の心配。

☑ 生活支援 ☑ 見守り ☐ 協議体
☐ 買物支援 ☐ 配達 ☐ その他
☐ 移動支援 ☐ 居場所づくり

# 14 「仮屋おたすけ会」による生活支援

指宿市 市民福祉部 長寿支援課

## 地域の概要

指宿市北西部に位置する仮屋地区（池田校区）は、高齢世帯が多く、高齢化率は56%を超えており、買物や移動などの生活課題がある。

## 取組のきっかけ

生活支援コーディネーターが地域資源開発の取組みとして、地域内の困りごとを地域内で解決する有償ボランティアの組織化について地区へ提案したところ、困っている高齢者を支える仕組みを創りたいとの希望があり、本市で初めて実施することとなった。

## 取組の目的

- 日常生活の中での困りごとの支援
- できる時にできることを支援し気軽に頼める関係づくり
- 見守りを兼ねたコミュニティづくり
- 高齢者が担い手として役割と生きがいを持ち健康長寿につなげる

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 令和３年10月 | 生活支援コーディネーターから地区へ取組みを提案。 |
| 令和３年12月 | 視察研修やワークショップ（ニーズと手伝えそうなことを出し合う）を実施。 |
| 令和４年１月 | ワークショップの意見を踏まえた規約及びチラシ案を検討し作成。 |
| 令和４年２月 | 担い手の募集と勉強会を実施。公民館役員会へ規約案などについて説明。 |
| 令和４年３月 | 地区総会で提案し、住民の同意を得る。 |
| 令和４年４月 | 発足式 |
| 令和４年５月 | 利用申込み開始。老人クラブ連合会に発足及び活動内容等について紹介。 |
| 令和４年６月 | 近隣校区の見守りグループ構成員に発足及び活動内容等について紹介。 |
| 令和４年７月 | のぼり旗作成。開始後のニーズ状況について地区と協議。 |
| 令和５年４月 | 気になる高齢者宅を訪問し、おたすけ会の説明とマッチングを行う。 |

## 活動の概要

仮屋地区では、高齢者などが日常生活において、ひとりでは対処できない困りごと（ごみ出し・買物・草むしりなど）を支援するために、地区住民による有償ボランティアを行う互助組織を構築し、生活支援を実施している。

〔組織〕
発足：令和４年４月
組織構成：「仮屋おたすけ会」15人　会長・副会長・支援員・見守り委員
（公民館長・民生委員・老人クラブなど）

〔利用人数・利用者負担〕
利用人数：　数人（Ｒ４年度）
利用者負担：　支援員１人あたり　30分　200円
以降、30分ごとに200円（計２時間以内）

〔活動に関わった人・団体〕
生活支援コーディネーター、市、社会福祉協議会、仮屋地区

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕
- SCと定期的な情報共有
- 第１層協議体で事業説明

〔SCとしての役割〕
- 地区への困りごとに関する聞き取りや取組みの意向確認
- 有償ボランティア組織の活動支援
- 社協広報紙での活動周知

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕
- 戸別訪問し、些細な困りごとを聴きながら、身近で気軽に使える支援であることを説明することで、住民に理解を深めつつある。
- 信頼関係を築きながら今後の活用につながることが期待されている。

〔課題〕
仮屋地区の住民に「仮屋おたすけ会」への理解と気軽な活用を促すため、戸別訪問による働きかけを行っている。また、ケアマネジャーなどへ周知し、生活支援の一助として活用につながるよう継続して働きかけている。

☐ 生活支援 ☐ 見守り ☐ 協議体
☑ 買物支援 ☐ 配達 ☑ その他
☐ 移動支援 ☐ 居場所づくり

# 15 「生活お役立ち情報　食の宅配サービス」作成と買物支援による活用

指宿市 市民福祉部 長寿支援課

## 地域の概要

指宿市は、観光資源を豊富に持つ。高齢化率が41%を超え、高齢化が進んでいる。

地域資源が乏しい地域があり、買物や移動などの生活課題がある。

## 取組のきっかけ

「食」に関する支援を必要とする在宅高齢者が増加したため、生活支援コーディネーターが食に関する宅配サービスなどを行っている身近な店舗から収集した情報をまとめ、支援が必要な高齢者とのマッチングに活用することとなった。

## 取組の目的

- 買物が困難な方への支援
- 安否確認・見守り支援
- 課題解決に必要な団体と連携する

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 平成30年 | 商工会議所や商工会を通じて加盟店の情報について調査を実施。 |
| その後 | 「生活お役立ち情報　食の宅配サービス」作成<br>※SCによる各店舗情報の集約。内容は随時更新している。 |

## 活動の概要

市内の店舗から、「食」に関するサービスについて収集した情報をまとめ、在宅生活を続ける高齢者の買物支援の一助として活用している。

〔掲載内容〕
店舗基本情報（連絡先、営業時間など）、取扱商品、配達圏域など

〔窓口設置・掲載場所〕
設置：指宿庁舎、山川支所、開聞支所、社会福祉協議会
掲載：社会福祉協議会ホームページ
※ケアマネジャーなどへも随時情報提供を行っている。

〔活動に関わった人・団体〕
生活支援コーディネーター、社会福祉協議会

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- SCやまちづくり担当部署と定期的な情報共有
- 第１層協議体で事業説明
- 居宅介護支援事業所への紹介・情報提供
- 研修会などでの紹介

〔SCとしての役割〕

- 地域にある店舗への情報聴き取り取材
- お役立ち情報の情報更新
- 社協広報紙・ホームページでの紹介
- 研修会などでの紹介

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 居宅介護支援事業所やご家族などに紹介することにより利用につながり、在宅での生活が維持されている。
- 民間事業者の一部では、離れた家族とLINEでつながり、訪問時の様子を写真で情報提供し喜ばれている。

〔課題〕

地域の個人商店が継続するためにも、店舗情報を速やかに更新しながら、支援を必要とする高齢者とのマッチングにつながるよう整備している。

☑ 生活支援 ☑ 見守り ☑ 協議体
☑ 買物支援 ☐ 配達 ☐ その他
☑ 移動支援 ☐ 居場所づくり

# 16 西之表市高齢者支援協議会

西之表市役所　高齢者支援課

## 地域の概要

市内人口13,962人（男性6,745人、女性7,217人）
65歳以上人口5,605人（男性2,419人、女性3,186人）、
高齢化率40.1%。〔R6.3月末現在〕高齢者の増加に伴い、
年々認知症高齢者・独居高齢者・高齢者のみの世帯など、
見守りや生活支援を必要とする高齢者も増加してきている。

## 取組のきっかけ

支援を必要とする高齢者が住み慣れた地域で、安心して生活していくためには、地域の支え合いの体制が必要不可欠である。そのような体制を推進するために、市では高齢者支援協議会の設立を進めており、現在、37協議会が地域において活動を行っている。

## 取組の目的

- 高齢者等の見守り支援
- 高齢者等の生活支援
- 行政や関係機関との情報共有
- 地域における介護予防の推進

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 平成21年４月 | 県の認知症地域支援体制構築等推進事業を活用し、７地区（５校区・２自治会）で高齢者支援協議会活動が開始。 |
| 平成26年４月 | 全13校区（榕城校区は上・下）に協議会が設置。 |
| 令和６年４月 | 37地区（13校区、24自治会）に協議会が設置され、活動している。 |

## 活動の概要

〇地域内の高齢者の見守り・声掛けを行う。
〇支援が必要な高齢者のゴミ出しや買い物、送迎、清掃等の生活支援を行う。
〇協議会を開催し、見守りが必要な高齢者のリストアップ・見直し、困りごと等、地域包括支援センターとも連携し、情報共有を行う。
〇健康診断受診や適度な運動など、介護予防に心がける機運づくりを行う。

〔令和５年度の実績〕
・協議会数…37協議会
・生活支援を行った高齢者世帯数…115世帯

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕
- 高齢者支援協議会への参加
- SCとの連携、情報共有
- 見守り活動等の委託契約

〔SCとしての役割〕
- 地域の高齢者へ困りごと等の聴き取り
- 社会資源の調査・情報提供・周知
- 困りごとを抱えている高齢者に応じたサービスの検討

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕
- ヘルパーの介入や親族の協力が得られない場合、協議会で支援を行っている。
- 定期的な活動が定着してきているところが増え、地域内での見守り体制が構築できつつある。

〔課題〕
- 見守り等以外にどのような活動をすればいいのかわからないという意見もあり、活動が見えない協議会もあるため、それぞれの協議会の活動内容を紹介するなどして参考にしてもらっている。
- 役員、支援者等の人材不足。

☑ 生活支援 ☑ 見守り ☑ 協議体
☑ 買物支援 ☐ 配達 ☐ その他
☑ 移動支援 ☑ 居場所づくり

# 17 喜入自治会　見守り隊

薩摩川内市　高齢・介護福祉課

## 地域の概要

薩摩川内市、ＪＲ川内駅から東方向の住宅地。地域内にはスーパーやコンビニ、高校などあり。450世帯の住宅地で薩摩川内市では最大規模。65歳以上が170名で高齢化率は18%程度。

## 取組のきっかけ

他自治体の見守りについての研修に行き、自分たちにも必要な見守り活動があるのはないかと、自治会内で意見交換を行い、80歳以上の高齢者にアンケートをとり、支え合いマップを作成することで自治会内の見守りや、移送支援についてのニーズがわかった。

## 取組の目的

- 自治会内の見守り
- 有償ボランティア

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 平成28年６月14日 | さつま町（白男川地区）見守りについての視察研修 |
| 平成28年６月16日 | 自治会内で意見交換し<br>・支え合いマップを実施<br>・アンケートを実施（80歳以上単身者39名） |
| 平成28年　冬 | アンケートと支え合いマップから見えてきたこと話し合い |
| | ・高齢者の困りごと<br>・見守りが必要な人<br>・見守りを行える人<br>それぞれのニーズを把握し、マッチングをしていく |
| 平成29年 | 支え合いをリスト化し、報告書の作成した |
| | 支え合い（無償・有償ボランティア）スタート |
| | 見守り活動を開始 |
| 毎年 | マップの更新をし、その都度見守りについて協議 |

## 活動の概要

見守り活動　　訪問活動や日常生活の自然な見守り活動
有償ボランティア　サロン送迎往復　1人300円
　　買い物・病院の送迎　1回600円　　1日前に予約
見守りのネットワーク化
・高齢者クラブ、サロンの会、女性の会　ＬＩＮＥグループを作成し情報共有
・自治会長、民生委員、アドバイザー、社協、他　防災のためのＬＩＮＥグループを作成

サロン送迎3名　久しぶりの利用となりました

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕
- 自治会ニーズの把握
- ＳＣの活動のフォロー
- 自治会活動の見える化、見せる化

〔SCとしての役割〕
- アンケート調査や支え合いマップのフォロー
- 地域住民の方々の思いをかたちにできるようなつなぎ
- 自治会としての取り組みを見える化、見せる化
- ネットワークを構築

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕
- 自治会内の見守り強化
- 住民同士の声掛けが増え、交流が密に
- 自治会内のニーズを自分たちで解決していこうという考え
- 協議体として機能

〔課題〕
- 災害避難時の要援護について
- ＩＣＴについて
- 見守り人員の高齢化について

☐ 生活支援 ☑ 見守り ☐ 協議体
☑ 買物支援 ☐ 配達 ☐ その他
☐ 移動支援 ☑ 居場所づくり

# 18 誰もが活躍できる地域（薩摩川内市亀山地区　小倉自治会）

薩摩川内市　高齢・介護福祉課

## 地域の概要

薩摩川内市亀山地区。小倉自治会は、南九州自動車道より西側に位置し、人口184人、高齢化率56.1%。2人に1人が高齢者。

## 取組のきっかけ

包括支援センターより、買い物に困っている方（Aさん）がいるので、地域で解決できないかなといった相談がきっかけ。Aさんは、独り暮らしで、最近物忘れが出てきており、買い物に行くことが困難になっている。県外の娘さんも、心配している。本人はできることはできるだけ自分でしていきたいと考えている。亀山地区担当の生活支援コーディネーターが相談を受け、地域の方にも相談した。

## 取組の目的

- 買い物支援
- 集いの場としての拠点づくり
- 見守り支援
- 役割づくり

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 令和４年 | 包括支援センターより、買い物に困っている方の相談あり |
| | 有償ボランティアの支援を検討するため、自治会長、世話役さんに相談 |
| | 小倉自治会は高齢化率も高く、ボランティアでの支援は難しい、他にも買い物に困っている人がいるのではないか、アンケート調査 |
| | 話し合い（自治会長、世話役、2層SC）<br>個別課題ではなく、地域課題としてとらえよう<br>移動販売車の活用、拠点づくりにしてはどうか |
| | 役割の確認 |
| | 生協コープかごしまさんからの説明 |
| | 生協コープかごしまさんの移動販売車スタート |

## 活動の概要

薩摩川内市小倉自治会と生協コープかごしま、社会福祉協議会（SC)が協働し、移動販売による買い物支援を実施している。

小倉自治会：買い物に困っている人への声かけ。
　　Aさん宅が拠点の移動販売について広報。
社協（SC)：生協コープかごしまと自治会とのマッチング
生協コープ：移動販売の日程調整。

〔頻度・利用人数・利用者負担〕
・週１回、Aさん宅の庭を拠点にしている。
・近所の方10名前後、集まって声を掛け合っている
・店舗と同じ値段で購入でき、事前に注文もできるため、重いものなどを頼んでいる方がいる

〔活動に関わった人・団体〕
Aさん、Aさんの娘、生活支援コーディネーター、小倉自治会、サロン担当者、生協コープかごしま

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕
- つながり発表会での活動の周知
- SCと定期的な情報共有

〔SCとしての役割〕
- 包括との連携
- 小倉自治会との連携
- 生協コープかごしまとのマッチング
- 買い物に困っている方への調査
- Aさん家族の思い調整
- 集いの場、見守り活動などの効果の見せる化

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕
- 買い物・移動に困っているといった一人の困りごとが、他にも困っている方がいるとのことで、自治会が課題解決できた。
- 集いの場としての拠点となり、独居や認知症の方の見守り活動。
- Aさんが自宅に移動販売がくるため、移動販売車の誘導をし役割をもつことができた。

〔課題〕
自治会が、川を挟み分かれており、距離があるため、川の向こう側の方への支援が行き届いていない。

☐ 生活支援 ☑ 見守り ☐ 協議体
☑ 買物支援 ☐ 配達 ☐ その他
☑ 移動支援 ☑ 居場所づくり

# 19 地域の未来のため、私たちがはじめたこと（上甑　中野自治会）

薩摩川内市　高齢・介護福祉課

## 地域の概要

薩摩川内市の西約30kmに位置する甑島。令和2年に上甑と下甑をつなぐ甑大橋が開通し、甑は一つになりました。
　上甑島は、人口2,000人で減少し続けており、高齢者率56%、島民同士で支え合う地域。

## 取組のきっかけ

　薩摩川内市では「まるごとささえ愛事業」で、生活支援コーディネーターと支え合い推進員が「いつまでも自分たちの町で生きがいを持って安心して暮らせるまち」を目指して、地域の困りごとやあったらいいなといった思いを皆さんと一緒に考え取り組んでいる。
　地域支え合い推進員が、サロン訪問をしたとき、「買い物に便利なバスがあったらいいな」といった声を聞き、買い物など移動の不便があることを知った。

## 取組の目的

- 買い物が困難な方への支援
- 新たな集いの場
- 担い手の役割づくり
- 高齢者クラブの活性化

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 令和４年４月19日 | 支え合い推進員が上甑地区での地域取材時に「日常生活での困りごと」について調査。「バスでの買い物などの移動について困っている」という声が多く聞かれた |
| 令和４年４月19日 | 支え合い推進員が、中野地区のふれあいサロンを訪問した際にも、買い物の移動についての困りごとをきく |
| 令和４年６月１日 | 上甑高齢者クラブ会長会（参加者：各高齢者クラブ会長5名、社協3名）<br>内容：推進員が聞いた地域の困りごとを紹介（買い物支援、入退院時の島内送迎）<br>結果：中野長寿会の会長から、買い物支援に取り組みたい意向があった |
| 令和４年６月13日 | 第1回ドライブサロン実行委員会<br>役割分担、費用、声掛けについて決定、お試し日7月1日・8日 |
| 令和４年７月１日<br>令和４年７月８日 | お試しドライブサロン1回目、2回目　（両日利用者6名） |
| 令和４年７月11日 | 第2回ドライブサロン実行委員会　お試し時のアンケートをふまえてドライブサロンの実施が決定 |
| 令和４年７月23日 | 中野役員会（ドライブサロンの実施の説明） |
| 令和４年８月６日 | 中野ドライブサロン開始 |

## 活動の概要

　ドライブサロンのスタート
車は、社会福祉協議会の車両貸し出し事業を利用し、ドライバーは2人で交代制。第１・３土曜日9時から11時に自治会の広場に集合し、島唯一のスーパーまで連れていきます。
買い物を楽しまれ、帰りは荷物がいっぱい。
当初、利用料は無料でしたが、令和5年度から200円の利用料とし、運行をしている。令和4年度実績は延べ回数16回、延べ利用者120名、利用平均7.5名

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- ＳＣや支え合い推進員との定期的な情報共有
- 薩摩川内市でつながり発表会にての発表。事例の見える化・見せる化

〔SCとしての役割〕

- サロン訪問による聞き取り調査の実施
- 困りごと把握した後、高齢者クラブと課題共有
- 中野自治会と課題解決に向けて話し合いの場に寄り添う
- 事例発表にて活動の周知

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 買い物困難者の買い物支援となった。
- 皆と会って一緒に買い物に行く集いの場となった。
- 外出の楽しみとなり、交流により笑顔が増え、生きがいになっている。
- 着ていく服を考え、情報交換の場となり、刺激のある日常となり介護予防に。

〔課題〕

- 買い物だけではない移送支援についても検討している（銀行や病院など）
- 現在月2回土曜のみの運行だが、平日の運行についても検討

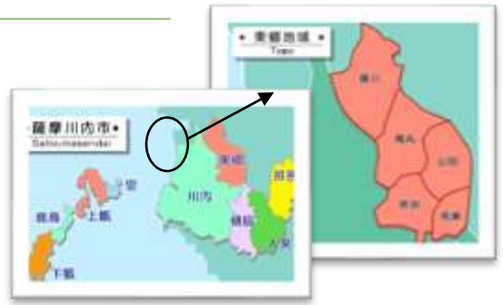
☐ 生活支援 ☑ 見守り ☑ 協議体
☐ 買物支援 ☐ 配達 ☑ その他
☐ 移動支援 ☑ 居場所づくり

# 20 本俣自治会のささえ愛（住民主体の助け合い）

薩摩川内市　高齢・介護福祉課

## 地域の概要

薩摩川内市東郷町の藤川地区。阿久根市との境にある、本俣自治会。世帯数は17世帯、全住民で27名。1世帯以外は**全員高齢者**、70歳以上の方が70%を占めています。



## 取組のきっかけ

30年以上続く本俣のサロン「本俣かじかの会」。
サロンを担当しているMさんが、「買い物が大変になってきた」と東郷担当の生活支援コーディネーターに相談したことがきっかけ。

## 取組の目的

- ●サロンの継続
- ●自治会全体で支え合う
- ●サロンだけではないつながり
- ●見守り活動
- ●孤食防止
- ●移動販売が集いの場

**●私たちはこれからもここで生きる**

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 令和３年８月 | ふれあい・いきいきサロン「本俣かじかの会」を生活支援コーディネーターが訪問 |
| 令和３年９月 | 東郷地域のサロン代表者が集まる会「サロン連絡会」で、「本俣かじかの会」代表Mさんから、「サロンの際に食事を提供しているが、買い物が大変になってきた、サロンが継続できない」と相談を受けた。 |
| 令和３年10月～12月 | ・生活支援コーディネーターが毎月サロンに参加し、参加者から話を伺い現状把握 |
| | ・生活支援コーディネーターから、サロン代表者のMさんが相談した内容について、本俣自治会長兼民生委員のTさん、健やか支援アドバイザーのRさんへ相談　（TさんとRさんは夫婦） |
| 令和４年１月～ | サロン代表者Mさんの悩みであった、買い物は、参加者でもあるRさんが担うようになり、サロン代表は、そのままMさんが継続することとなった。 |
| | 月1回のサロンは役割を分担し継続することになった |

## 活動の概要

→●自治会副会長のNさんが自治会の配布物の配布が困難。運転ができるRさんが配布を手伝い。

↑役割を分けながら、サロンの継続
- ●買い物→　Rさん（運転可）
- ●調理→　Nさん（そのまま）
- ●サロン代表→　Mさん（そのまま）

活動は、脳トレ、おしゃべりや食事。みんなで役割分担をしながら工夫して

お付き合い歴30年以上
平均年齢♡85歳♡
最高年齢♡94歳♡

**サロン以外でも、強くつながり助け合う**

←●年2回の清掃作業。本俣自治会長Tさんは、作業の１か月前に本俣自治会出身者に協同を求める手紙を送付。毎年多くの出身者が地元に集まり、地元住民と出身者との交流の場となっている。

↑●『結いの郷　ふれあい館』出身者が帰省した際の集いの場。故郷である本俣と出身者をつなぐ。

←●炭窯を作り、炭焼きを数年ぶりに開催！

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕
- ●2層SCと情報共有
- ●本俣の活動について広報

〔SCとしての役割〕
- ●サロン代表者との連携
- ●本俣自治会の方のつながりを発見、意識化、見える化、見せる化、共有
- ●サロンの調整

担当SC：Y

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕
- ●見守り・見守られ
- ●介護予防
- ●孤食防止
- ●助け合い
- ●役割を持ち、生きがい活動となっている

〔課題〕

現時点で、60代世帯が本俣自治会を支えているが、5年10年後は人口減少や高齢化により現状を維持できない

☐生活支援 ☑見守り ☐協議体
☐買物支援 ☐配達 ☑その他
☐移動支援 ☑居場所づくり

# 21 陽成地区 （上大迫自治会）

薩摩川内市　高齢・介護福祉課

## 地域の概要

陽成は、薩摩川内市の中部、麦ノ浦川の流域に位置している。山に囲まれ、自然豊かな地域。人口504名、高齢化率54.9%
高齢化率が高く、コロナ禍で担い手不足が地域の課題として挙がっている。

## 取組のきっかけ

自治会で住民支え合いマップを実施した時に、コロナ禍で地域内で集まる機会が減ったと話題に挙がったことがきっかけ

## 取組の目的

●地域のシンボルであるイチョウを生かした、集いの場としての拠点づくり
●地域内での集いの場の立ち上げ
●住民支え合いマップの実施（見守りについての協議の場）

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 令和４年12月７日 | 住民支え合いマップを実施 |
| | ・コロナ禍で地域で集まる機会が減った　と意見あり |
| | 生活支援コーディネーターが、他地区の集いの場について情報提供 |
| | 自分たちでも取り組んでみよう |

## 活動の概要

〇集いの場１〇
移動販売で、人が集まること利用し、移動販売車が来る前にラジオ体操を始める
週に1回
９人参加
料金は無料

〇集いの場２〇
自治会で、毎年「イチョウの杜」でライトアップのイベントを開催。
見学者がゆっくり過ごせるようにと、手作り、手塗りをしたテーブルと椅子の設置
イチョウの横にコスモスを植えたり、草取りしたり手入れをしている

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔SCとしての役割〕

●住民支え合いマップで集いの場や地域活動の把握
●他地域の取り組みの情報提供
●活動開始後のフォロー
●活動を他地区に広報、情報提供
●他地区で同じ取り組みが始まったことを、上大迫自治会へ情報提供

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

●地域の新たな集いの場
●介護予防（ラジオ体操）
●高齢者同士の交流
●参加者が増え、交流が増えた
●隣の自治会が活動を知り、同じ活動に広がった
●他地区でも活動が始まり、改めて自治会のやる気となった

〔課題〕

●高齢化率が高く、今後の継続した活動

- [x] 生活支援
- [x] 見守り
- [x] 協議体
- [ ] 買物支援
- [ ] 配達
- [ ] その他
- [ ] 移動支援
- [x] 居場所づくり

# 22 地域のヒーロー（祁答院町藺牟田地区　湯之元自治会）

薩摩川内市　高齢・介護福祉課

## 地域の概要

薩摩川内市祁答院町の藺牟田地区。藺牟田池を囲む山間。
湯之元自治会は、人口は906人、世帯数は476世帯。高齢化率は50.2%、藺牟田地区の中でも一番高い。

## 取組のきっかけ

30年前に、青年、壮年部の男性の集まりがなかったので、まずは飲み会を月1回しよう！旅行に年1回行こう！と火曜日に集まりだしたのがきっかけ。
その後、「火曜倶楽部」という名前を付けて活動を開始。
集まりの中で、地域の困りごとが聞かれるようになり、ボランティア活動を始めることになりました。

## 取組の目的

- 集いの場
- ボランティア活動
- 地域活性化
- 世代間交流

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 平成５年ごろ | 青年部と壮年部（20代から50代）の集まりがなかったので、飲み会を月1回しよう！ |
| | 年に1回は旅行に行こう！ |
| | 火曜日に集まることより、「火曜倶楽部」と名付けて、集まるようになった。 |
| | おそろいのジャケットを作った。 |
| | 毎月第3日曜日、足湯公園の清掃をするようになった。 |
| | 年末の年越しイベントのために、そばをつくることになった。 |
| | 土壌作りから行い、そばの種をまき、種から育てた。 |
| | 高齢者宅の草払いなどのボランティア活動を始めた。 |
| | 55歳が定年だったが、70歳まで引き上げた。（高齢化）<br>そばつくりのコストを考え、一から育てることをやめた。 |
| 令和３年12月末 | そばつくりを再開。帰省している人にも、そばをふるまう。 |

## 活動の概要

毎月第3日曜日　足湯公園の清掃
毎月1回の定例会＆飲み会
年1回の旅行
年末に年越しそばのふるまい
ボランティア活動（高齢者宅の草払い、ゴミを集める）
敬老会での余興

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- つながり発表会での見える化、見せる化、共有していく
- SCと定期的な情報共有

〔SCとしての役割〕

- 既存のボランティア活動を発見し、意識化、見える化。見せる化し共有する
- 「火曜倶楽部」との活動を広報
- 「火曜倶楽部」の活動している方々の思いをつなげていく
- 住民との関係を築き

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 男性の集いの場となり定期的に集まって活動している
- 時代に合わせて変化する柔軟性がある
- 定例会と飲み会があり楽しみができている
- 地域の声を拾い、活動につなげることができている

〔課題〕

- 活動メンバーの高齢化
- メンバーが減り続けている
- 活動の計画

☑ 生活支援 ☑ 見守り ☐ 協議体
☐ 買物支援 ☐ 配達 ☐ その他
☑ 移動支援 ☑ 居場所づくり

# 23 野菜づくりグループ「青葉会」

NEW

薩摩川内市　高齢・介護福祉課

## 地域の概要

永利地区は三方を山に囲まれた地形が特徴で市立少年自然の家てらやまんちや薩摩川内市せんだい宇宙館など豊かな自然と歴史に育まれた魅力的な地域です。

## 取組のきっかけ

定年を迎えた男性たちがこれからをどのようにすごしていくか考えていた時に同じ趣味を通じてコミュニケーションを図り交流することを目的に取り組みを開始

## 取組の目的

- 定年を迎えた男性の生きがいづくり
- 同じ趣味を持つ仲間のコミュニケーションの場
- 野菜づくりのノウハウの伝達
- 見守りや支え合いの場

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 平成２４年 | 定年を迎えた男性たちにより、野菜づくりグループ「青葉会」の結成 |
| | 店舗で育てた野菜の販売 |
| 平成２５年 | 活動なしで２６年度へ |
| 平成２６年 | 再スタート　青葉会会員が夏野菜の苗の売り上げを寄附。それぞれの畑で栽培 |
| 平成３０年 | 懇親会や忘年会を開催　※定期的に茶話会なども開催 |
| 令和４年 | 夏野菜の苗の準備を個人で行うようにする |

## 活動の概要

【活動内容】
種を植え、苗まで育てたものをそれぞれの畑に持ち帰り育てている。畑の状態を気にかけ合うことでコミュニケーションが図られ、アドバイスをし合いながら活動している。その他メンバーの自宅に集まり、茶話会や昼食会、忘年会など行い、思いを分かち合っている。

【活動人数】10名　　【参加条件】特になし。自治会外の方も参加可能。

野菜づくりの先生
北原さん

青葉会の母
つや子姉さん

高齢になり脱退を考えることもあったが、みんなに誘われ足を運び続けている。楽しみの場になっている。

野菜も人と同じ「生きている」という気持ちで見ると自然とどう接してい行けばよいかわかる。

〔活動に関わった人・団体〕
民生委員児童委員、健やか支援アドバイザー、地域住民、生活支援コーディネーター、支え合い推進員

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 「みんなのつながり発表会」の開催にて、趣味活動を通じた集まりの場から生まれた助け合いの様子を見える化、見せる化。
- SCと定期的な情報共有

〔SCとしての役割〕

- 青葉会の活動を通じてそれぞれの役割や効果を伝え、認識してもらった
- 地域の相談、ネットワーク構築

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 会員同士の支え合いの場
- 会員だけでなく、家族同士のつながり
- 生きがいややりがい
- 活動自体が介護予防

〔課題〕

- 会員の高齢化
- 若い世代とのつながりづくり

☐生活支援 ☑見守り ☐協議体
☑買物支援 ☐配達 ☐その他
☑移動支援 ☐居場所づくり

# 24 田崎自治会　「見守り会議／住民支え合いマップ」

NEW

薩摩川内市　高齢・介護福祉課

## 地域の概要

田崎自治会は、薩摩川内市の田崎町と永利町を含む地域です。
昭和５０年代までは、１５０世帯、人口５００人程度の農村でしたが、昭和６０年代になると宅地開発が進み、現在では約８００世帯、人口2,000人を超える人口急増地帯となりました。

## 取組のきっかけ

高齢者クラブ代表の「自分たちの地域のことは自分たちで考えよう」という思いから、「見守り会議」は立ち上がりました。見守り会議の際に「住民支え合いマップ」を取り入れる事で専門職とも連携、より見守り体制の充実を図る事を目指しています。

## 取組の目的

●見守りネットワークの構築　●高齢者のひきこもり予防
●生活支援の体制整備　●専門機関との連携

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 令和４年１０月 | お互い様の関係をつくり見守り見守られの関係を作っていきたい |
| | 見守りマップ（支え合いマップ）を鶴亀会（高齢者クラブ）の集まりの場で作成 |
| | 高齢者クラブだけで考えるのではなく自治会として考えていく仕組みをづくり |
| 令和５年５月 | 見守りマップを「見守り会議」として継続し情報を共有 |
| | 田崎自治会の仕組みづくりの表を作成しみんなで共有「選択していける場所」 |
| 令和５年１２月 | 見守り会議で、「生活支援」や「ボランティア」についてみんなで勉強 |
| 令和６年 | 見守り会議を年に２回開催していく |

## 活動の概要

田崎自治会では、半年に１回「見守り会議」を開催、その場で「住民支え合いマップ」の更新を行っている。現在、その場から生活支援体制の構築に向け活動を展開している。

［参加者］
民生委員
自治会長
健やか支援アドバイザー
サロン代表者
高齢者クラブ代表
地域住民

自治会の住民の生活支援の相談に対し、見守り会議の場で支援体制を話し合います。
民生委員を中心とした有志の方々で対応、今後は自治会独自のボランティア団体の立ち上げも視野に入れている。

## 事例における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕
●SCと定期的な情報共有
●SCの活動のフォロー
●自治会のニーズ把握

〔SCとしての役割〕
●住民支え合いマップ時の聴取と記録
●マップから把握した地域課題解決に向けた取り組みの提案とマッチング
●自治会独自のボランティア団体の立ち上げと継続に向けた調整

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕
●サロンの参加者が増えている
●地域行事へ男性の参加者が増えてぃる
●地域住民同士、自分たちの地域について考えている
●個別課題に対し、自治会内の助け合いで対応できている

☐生活支援 ☑見守り ☑協議体
☐買物支援 ☐配達 ☐その他
☐移動支援 ☑居場所づくり

# 25 湯田地区～誰もが気軽に集まることのできる場～（湯田地区コミュニティ協議会）

NEW

薩摩川内市　高齢・介護福祉課

## 地域の概要

湯田地区は薩摩川内市の北西部に位置しており、海・山・川に囲まれています。日本名湯100選に選ばれている川内高城温泉があります。
人口410人、266世帯、高齢化率56.0%の地域。

## 取組のきっかけ

湯田地区は、コロナの影響で集いの場が減少。湯田地区の中心にある湯田コミュニティセンターに、『気軽につながる場』ができれば、人と会って話をする機会が増え、楽しみや生きがいにつながるのではないかと中村コミュニティ主事とSCの話し合いが活動きっかけとなった。

## 取組の目的

●地域の中心にある、湯田地区コミュニティセンターを集いの場の拠点とする
●誰でも気軽行くことできる集いの場の作成
●これからも安心して湯田地区で住み続ける為に、情報共有の場の設定
●集いの場が楽しみ・生きがいになるようにしていく

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 令和５年４月 | 湯田地区コミュニティ協議会主事と気軽集まれる場について協議する。 |
| 令和５年６月 | スマホ講座開催(主事の声掛けにより、興味がある方、各自治会長などが参加する) |
| 令和５年８月 | スマホ講座の際に地域の見守りや支え合い・つながりについて話しをする。 |
| 令和５年９月 | 湯田地区初めての住民支え合いマップを開催。全７自治会開催へ。 |
| 令和５年１０月 | スマホ講座終了。集いの場の継続へ。形を変化して開催。（はんとけん体操実施） |
| 令和５年１２月 | はんとけん体操開催。その後、毎月開催。 |
| 令和６年６月 | 湯田地域食堂開催 |
| 令和６年７月 | 湯田地区園芸サロン開催。コロナ禍により中止していたが、数年振りに開催。 |
| 令和６年９月 | はんとけん体操や地域食堂から参加者の得意なことから新たな折り紙・手芸サロン立ち上げ。 |
| 令和６年９月 | 各自治会の民生委員・健やか支援アドバイザーとの意見交換会開催(協議体) |

## 活動の概要

薩摩川内市湯田地区コミュニティ協議会と協議をして活動を進めている。
集いの場に参加者して頂いた方々からの声を集めて、活動から活動へ繋がっている。

参加者からの声や日頃の見守り活動の様子を湯田地区全７自治会の民生委員・健やか支援アドバイザー・行政・社協が参加して協議して湯田地区がいつまでも住みやすい町にしていく。

今後は、様々な活動が継続していけるように、湯田地区コミュニティ協議会とも協議をしていく。

〔活動に関わった人・団体〕
生活支援コーディネーター、市町村、社会福祉協議会、湯田地区コミュニティ協議会、民生委員、健やか支援アドバイザー

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

●「みんなのつながり発表会」の開催にて、見える化、見せる化。

●SC活動のフォロー
●SCと定期的な情報共有

〔SCとしての役割〕

●湯田地区コミュニティ協議会の主事との連携
●地域の活動につながるように相談対応
●湯田地区の方々とネットワークの構築

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

たくさんの集いの場が出来て、コミュニケーションをとることで笑顔が増えた。参加者が次回の開催日を楽しみしており、生きがいにつながっている。

〔課題〕

たくさんの方々に参加していただけるような周知方法。現在は、出張サロン等を行い活動を知って頂くことも行っている。また活動を続けていけるようにしていく。

☑ 生活支援 ☑ 見守り ☐ 協議体
☑ 買物支援 ☐ 配達 ☐ その他
☑ 移動支援 ☐ 居場所づくり

# 26 土橋地区公民館　買い物ツアー

NEW

日置市　介護保険課
日置市社会福祉協議会

## 地域の概要

土橋地区は、日置市伊集院地域の東部に位置し、鹿児島市と隣接している自然豊かな地域。
少子高齢化が進み人口約750人、高齢化率は50%を超えている。
今後免許返納者の増加も見込まれ、移動支援が課題となっている。

## 取組のきっかけ

- コロナ禍で地域が閉鎖的になっていた。
- 免許返納をした独居高齢者が増えてきた。
- 免許返納者の増加も見込まれ、買い物困難に対しても早めに対応ができたらと地区公民館側が、地域へ提案し実施することとなった。

## 取組の目的

- 買い物困難の方への支援
- 見守りを兼ねて、自治会を超えた交流（地域が離れていて、交流がない）

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 令和３年 | 吹上町藤元地区の買い物ツアーを土橋地区公民館支援員が視察 |
| 令和３年８月 | 土橋地区公民館支援員が、タクシー会社へ買い物ツアーの企画書を提出し、合意を得る。 |
| 令和３年９月 | 土橋地区公民館職員が地域の民生委員に相談 |
| 令和３年11月 | 土橋地区の安心安全・見守り事業会議にて、買い物ツアー利用について相談。 |
| | ①利用者の調査（民生委員に依頼）②登録者リストの作成　③タクシー乗り場調査とリスト化 |
| 令和３年12月 | 買い物ツアー実施 |
| 令和６年３月 | 土橋地区公民館の予算減少の為、継続に向けて再検討。 |
| | 利用者負担と赤い羽根共同募金の助成を活用し、継続中 |
| 令和７年 | 利用者が増えたことを想定し、買い物サポートが可能な団体と話し合う予定 |
| | |

## 活動の概要

土橋地区公民館と自治会、地域のタクシー会社が協働し定期的に月１回、買い物に困難のある高齢者などを対象に、ジャンボタクシーを利用し、買い物支援を実施している。

◆対象者：独居高齢者、高齢者世帯で遠方までの運転が自信のない方、障がいがある方や、65歳以上の希望者

◆場　　所：伊集院地域のスーパー

◆日　　時：月１回（第３水曜日　13時半～15時）

◆利用人数：　７　名

◆利用料金：年間 500円

◆活動に関わっている人
・土橋地区公民館職員、民生委員、福祉アドバイザー
・買い物には、民生委員、福祉アドバイザーから２名付き添っている。

## 生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- SCと定期的な情報共有
- 他の自治体等へ周知

〔SCとしての役割〕

- 広報誌での活動の周知
- 他の地域への情報提供
- 赤い羽根共同募金助成金の相談・支援
- 土橋地区で支援継続ができている為相談があれば買い物サポートが可能な団体とつなぐ
- SCが定期的に土橋地区公民館へ訪問、電話連絡し、情報共有
- 土橋地区の活動の把握、土橋地区公民館との繋がり
- 関係団体の連携・協同
- 担い手育成（シニア人材育成推進事業）

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 買い物ツアーの道中で会話することを楽しみにしている利用者が多い。
- 重たい物も購入できる。
- 当日利用しなくても利用有無の確認を行っている。
- 民生委員、在宅福祉アドバイザーが同乗している為、見守りや安否確認にもつながっている。

〔課題〕

- 買い物ツアーがスタートしてから見直しができていない為、利用者の再調査が必要
- 利用者が増えた時の対処法
- 日置市の乗り合いタクシーなど、他の手段も利用できる支援

☑ 生活支援 ☑ 見守り ☐ 協議体
☑ 買物支援 ☐ 配達 ☑ その他
☐ 移動支援 ☐ 居場所づくり

# 27 ほっと♡サービス

NEW

社会福祉法人 曽於市社会福祉協議会

## 地域の概要

曽於市は平成17年に3町（末吉町、大隅町、財部町）が合併し誕生。
人　　口：32,110人
世 帯 数：17,128世帯
高齢化率：43.6%　　（令和7年2月現在）
少子高齢化、人口減少等は年々進行している。
買物などの移動支援をはじめ、自助や公助では対応が難しい生活課題に対する地域支援の必要性が高まっている。

## 取組のきっかけ

地域福祉の推進において、自身や制度では対応が難しい生活課題が増える中で、身近な地域での支え合いを醸成することを目的に、顔の見える地域住民の助け合いの関係づくりの促進と「自分たちの住むまちを、自分たちの手で住み続けられるようにしたい！」という住民の思いを形にしようと始まった。

## 取組の目的

- 自助や公助では対応が難しい生活課題に柔軟に対応することによる切れ目のない支援
- 身近な地域における住民同士のつながりづくりと日常的な助け合いの促進
- 住民の地域福祉活動への参加促進と支え合いの機運を再醸成
- サービスを通じて人と人とのつながりを生み、地域の支え合いを広げる

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 平成23年2月 | 住民参加型の福祉サービスに関わるアンケート調査実施 |
| 平成23年7月 | 第1回住民参加型福祉サービス検討会 |
| 平成23年9月 | 先進地研修 |
| 平成23年10月 | 第2回住民参加型福祉サービス検討会 |
| 平成24年2月 | ほっと♡サービスたからべ事業開始 |
| 平成25年 | 大隅地域住民参加型福祉サービス検討会 |
| | 末吉地域住民参加型福祉サービス検討会 |
| 平成25年6月 | ほっと♡サービス大隅、ほっと♡サービス末吉事業開始 |
| | 市内全域に事業を展開 |
| 毎年 | 協力会員連絡会を開催 |

## 活動の概要

●取り組みの概要
お手伝いをお願いしたい人を依頼会員、お手伝いをする人を協力会員として登録する会員登録制の有償サービス。市社協が依頼会員と協力会員をコーディネートし、日常生活上の困りごとに対し、生活支援をはじめ、庭の整備、簡易な修繕など幅広く支援を行う。（相談・会員登録は無料）

【頻度】
依頼会員の依頼に対し、その都度対応
受付日時：月曜日から金曜日まで（祝祭日は除く）9時から17時
サービス実施日時：日曜日から土曜日まで8時から17時

【利用料】
30分まで300円。以降10分を超えるごとに100円を加算
協力会員自家用車使用料20円/km
※協力会員の車に乗って移動することはできない。
例）病院の付き添いの場合
依頼会員は、病院の送迎やタクシーなどを利用して病院へ行きます。
協力会員は、①依頼会員が乗車するタクシーに同乗する。
②タクシーなどの後を協力会員は車で着いて行く。
③病院で待ち合わせする。

【活動に関わる人・団体等】
地域住民、市社会福祉協議会、市、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所 など

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕
- サービス周知の協力
- 情報共有

〔SCとしての役割〕
- アンケート調査
- 住民参加による検討会の開催
- 困りごとへの相談支援
- 会員登録と支援調整
- 協力会員人材の発掘と養成
- サービスの周知と協力会員の募集

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕
- 制度の狭間にある困りごとに柔軟に対応することで、地域生活の安心を支援できている。
- サービスを入口に同じ地域に住む住民同士としてのつながりを生み出し、日常的な関わりを生み出している。
- 活動者として参加する機会を作ることで、地域福祉への理解促進となっている。

〔課題〕
- 生活支援の必要性が高まっている中で、サービスがなかなか浸透しないことに対する周知の強化
- 協力会員の増強による網の目の細かいサービスの展開

☑ 生活支援 ☐ 見守り ☐ 協議体
☑ 買物支援 ☐ 配達 ☐ その他
☑ 移動支援 ☐ 居場所づくり

# 28 三郷ドリーム♪ほっとサービス

NEW

霧島市　長寿介護課

## 地域の概要

国分北圏域で郡田川を挟んだ国分北小学校区域内。
国分市街地から車で15分。
公共交通機関はバスのみ。主な移動手段は車。

人　　口　　915人（住民基本台帳人口）
高齢化率　　24%
自治会加入率　49%（R6.4.1現在）

## 取組のきっかけ

自治会内のサロン活動で、ゴミ出しや買い物など身近な困りごとを抱えている人がいるという声を耳にし、実態を調べ、地域内で支援できるよう“今”仕組みを整え、継続的な運用を図れるようにしたいと考えたこと。

## 取組の目的

●ちょっとした家事や移動に困っている高齢者、障がい者、介護等で同様の困りごとを抱えている方を対象に、地域内で支援（互助）活動の仕組みを整え、継続的な運用を図る。

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| | サロンの茶話会時、ゴミ出しや買い物等に困っているという声が上がる。 |
| 令和５年 | 地域内で助けあい・支え合いの仕組みづくりができないか構想をはじめる。 |
| 令和５年４月 | 助けあい・支え合い活動について県社協より住民参加型福祉サービス事業の説明をしていただく。 |
| 令和５年６月 | 地域内で仕組みづくりを検討していることを、サロン活動内で共有する。 |
| 令和５年７月 | 地域の活性化や自治会活動への協力を目的に活動している「三郷ドリーム同友会」を中心に生活支援の団体「三郷ドリーム♪ほっとサービス」を結成する。 |
| 令和５年８月 | ボランティア活動保険に加入し、生活支援サービスを開始する。 |
| 令和５年12月 | チラシを作成し、自治会内へ配布し周知する。生活支援にプラスして、買い物支援・通院支援等、移動を含む支援も開始する。 |
| 令和６年３月 | 鹿屋市川東町・泉ヶ丘町へ先進地視察。 |
| 令和７年１月 現在 | ゴミ出し支援・庭仕事支援・外出支援等活動中！！ |
| | |

## 活動の概要

◆活動内容：　家事支援（ゴミ出し、電球交換、片付け…）
庭仕事支援（庭の草刈り、掃除、片付け…）
外出支援（買い物、病院…）

◆活動範囲：　三郷自治会内

◆利用料　：　300円/30分、ゴミ出し100円/1回

◆対象者　：　地域内の高齢・障がい等で日常生活で困りごとを抱え、手助けを要する方等

◆構成員　：　13名

◆利用状況：　189件（平均6件/月）
（R7.1月現在）

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

●SCと定期的な情報共有

〔SCとしての役割〕

●活動に関する相談

●活動状況の把握

●保険、助成金手続き

●事例発表にて活動の周知

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

週1回のゴミ出し支援での声掛けが、新たなつながりや見守りにもなっていること。また、R7より女性の支援員もゴミ出し支援の月当番に入ったことから、ごみ回収訪問時の女性目線での会話などを含め“日常でのちょっと助けてほしいこと”も上がってくるようになることを期待している。

〔課題〕

活動の定着広がりにつなげる新たな支援（グループ）メンバー加入への継続的対応。

地域の絆
チアアップキャラクター
きりしまちこです

☑ 生活支援 ☑ 見守り ☑ 協議体
☑ 買物支援 ☐ 配達 ☐ その他
☑ 移動支援 ☐ 居場所づくり

# 29 「困りごと支え隊」（※1）「かせとも」（※2）による生活支援

いちき串木野市社会福祉協議会

## 地域の概要

いちき串木野市は鹿児島県薩摩半島の北西部に位置し、平成17年10月に市来町、串木野市が合併し誕生。

人口25,879人、高齢化率39.29%。（令和6年4月末現在）

16の地区（コミュニティ組織）、143の公民館が地域福祉を推進する基礎単位。

## 取組のきっかけ

平成30年に市と社協の話し合いの中で、公民館等の福祉部等を基盤として地域住民が被支援者を支援する体制づくりを進めていく方針で一致。

## 取組の目的

●生活支援が必要な方（被支援者）への支援。

●生活支援を行う方（支援者）にとっての介護予防。

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 平成30年６月 | 高齢者地域支え合いポイント事業を活用した「困りごと支え隊」の活動方法について市、社協間で協議を開始。 |
| 平成30年12月 | 羽島地区、野平地区を「困りごと支え隊」のモデル地区とすることを市、社協間で決定。 |
| 令和元年11月 | 羽島地区で困りごと支え隊「コスモス」「めだかの学校」が結成。 |
| 令和２年１月 | 羽島地区で困りごと支え隊「たんぽぽ」が結成。 |
| 令和２年２月 | 野平地区で困りごと支え隊「野平困りごと支え隊」が結成。 |
| 令和３年５月 | 介護人材確保ポイント事業による「かせとも」を令和4年度から実施することを市が決定。 |
| 令和３年６月 | 介護人材確保ポイント事業を活用した「かせとも」の活動方法について市、社協間で協議を開始。 |
| 令和４年４月 | 羽島地区、野平地区で「かせとも」の活動を開始。 |
| 令和４年６月 | 地区社協活動の取組に生活支援を位置づけ、地区の会長等へ説明を実施。 |
| 令和５年３月 | 地区社協活動として16地区内全てで「困っている人」を把握する体制となった。 |

## 活動の概要

● 活動の柱

１．生活支援CD、市担当者による地区等やころばん体操への事業説明を行うことで普及啓発を実施。
２．地区社協活動(※3)に生活支援を位置づけ、地域福祉の基盤整備を推進。
３．高齢者地域支え合いグループポイント事業、介護人材確保ポイント事業を活用。

● 生活支援の項目

①屋内の掃除　②屋外の掃除　③ゴミ出し　④洗濯　⑤布団干し・取り込み　⑥衣服の整理・補修
⑦調理　⑧買い物　⑨戸締り　⑩環境整備　⑪外出　⑫話し相手

**「困りごと支え隊」(※1)**

・「高齢者地域支え合いグループポイント事業」を活用し以下にポイント付与。
・グループで同一日に３人以上（半数以上が６５歳）で１時間以上の支援。
　1ポイント＝1,000円、年間最大60,000円。
・定期的に困っている方について福祉部等で情報共有や支援内容の会議。

**「かせとも」(※2)**

・「介護人材確保ポイント事業」。
・個人で１回30分以上の支援。
　30分＝1ポイント＝100円(1日上限2ポイント)、年間最大5,000円の本市で使える商品券。

**「地区社協活動」(※3)**

16地区を地区社会福祉協議会として設置し、地区を窓口としながら生活支援の体制づくりを推進するため、以下の取組を行う。

①生活支援の必要性があると思われる方（高齢者等）の実態把握（名簿作成）。
②生活支援の内容や方法、頻度等について話し合う（会議録・年４回以上）。
③必要性があり、かつ可能であれば地域で生活支援を実施。
※①②③は主に公民館ごとに実施。
※赤い羽根共同募金で助成（地区と公民館へ助成）。

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

●事業主旨方針を明確にする。
●SCと定期的な情報共有を行う。

〔SCとしての役割〕

●社協が従来から持ち合わせている地域との関係を活かして事業主旨を伝える（地域、関係各所への啓発）。
●関係各所との協議の際には進行やまとめ役を行う。

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔実績・令和6年１２月末〕

●「困りごと支え隊」
（羽島地区３団体、野平地区１団体、上名地区１団体、本浦地区１団体）
⇒6団体、支援人数：212人、支援日数：120日。

●「かせとも」
⇒52人、支援人数：253人、支援日数：1389日。

●市内全ての地区(16地区)で「困りごと支え隊」が結成される。

☑ 生活支援 ☑ 見守り ☑ 協議体
☑ 買物支援 ☑ 配達 ☐ その他
☐ 移動支援 ☑ 居場所づくり

# 30 移動販売車「ぐりんぐりん号」による買い物支援

NEW

いちき串木野市社会福祉協議会

## 地域の概要

いちき串木野市は鹿児島県薩摩半島の北西部に位置し、平成17年10月に市来町、串木野市が合併し誕生。

人口25,879人、高齢化率39.29%。（令和6年4月末現在）

16の地区（コミュニティ組織）、143の公民館が地域福祉を推進する基礎単位。

## 取組のきっかけ

かねてより地域ケア会議などで地域内での買い物支援に関する困りごとが指摘されていた。また、既存の移動販売車はあったが市内全域のニーズを充足するには不十分であったため、もう一台移動販売車が必要だという思いから事業開始に至った。

## 取組の目的

- 高齢者への買い物支援
- 近所の方を支援しながら買い物をすることで生まれる生活支援の仕組みづくり
- 自ら買い物をすること、集合場所まで歩いたり、地域の人と関わったりしながら買い物することを通じた介護予防

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 令和２年６月 | 政策課（役所）を通じ、日本風力エネルギー株式会社（以下、日エネ）よりマスク寄付の相談を受ける。（事業助成へのつながるきっかけ） |
| 令和２年７月<br>～令和３年４月 | 豪雨災害がきっかけで、継続的な意見交換の場を設けていた。日エネより社会貢献について、継続的に話し合いたいとの相談があり、月１回の情報共有会議を開催。（計９回） |
| 令和３年５月 | 日エネ「一般社団法人カザミドリ」設立を知る。（地域の課題解決を目指す社会貢献の一環） |
| 令和３年６月 | 日エネの社会貢献活動と体制整備事業としての活動の情報共有、協議。<br>（一社）カザミドリより移動販売車購入に対し助成が確定。 |
| | １６地区へアプローチ。（事業趣旨の説明と地域の状況把握） |
| 令和３年７月～10月 | 具体的な取組開始。関係者と協議。助成金の申請、交付決定。 |
| 令和３年11月～12月 | 実施事業者決定。 |
| 令和４年１月 | 商品等検討。ころばん体操代表、まちづくり競技愛会長等へ事業開始の案内。<br>出発式・運行開始。 |

## 活動の概要

いちき串木野市では、143公民館のうち、109公民館でころばん体操が行われている。この取組は元気な人も虚弱な人も集まって行うことを理想としているため、良好な住民間の関係と支援体制が必要であり、定期的に顔を合わせていることから、互いを気にかけ合う関係性が築かれている。

買い物に課題を抱える高齢者が集まるころばん体操などの拠点を活用し、移動販売車を巡回させることで、住民間の支え合いを通じた買い物支援の体制を作っている。

商品を手に入れるだけでなく、自ら歩いて店に行き、商品を選んで支払うという過程が介護予防になるという点も重視している。

・巡回：現在１０地区２２ヶ所を対象
・停車時間：２０分
・参加対象者：誰でも可能　※ころばん体操を行わない人も利用可能。
・利用料：無料

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- SCと定期的な情報共有を行う

〔SCとしての役割〕

- 社協が従来から持ち合わせている地域との関係を活かして事業主旨を伝える（地域、関係各所への啓発）。
- 関係各所との協議の際には進行やまとめ役を行う。
- 関係機関や住民との関係構築

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 地域の集合場所で移動販売を行うことで、地域の方々が隣近所の方を支援しながら買い物をしつつ、生活支援を行う仕組みづくりができる。
- 集合場所まで少しでも歩き、地域の人と関わりながら買い物ができるため介護予防につながる。

〔課題〕

運転から商品の補充、販売等全ての業務を一人の担当者が行っており、代わりがいないことから、負担が大きくなっている。

☑ 生活支援 ☐ 見守り ☐ 協議体
☑ 買物支援 ☐ 配達 ☐ その他
☐ 移動支援 ☐ 居場所づくり

# 31 西町ささえあい隊

さつま町　ほけん福祉課

## 地域の概要

西町はさつま町では市街地ではあるが、地域住民の高齢化率は35.5パーセントとなり、日常生活上の支援に、課題を有する高齢者世帯も増えている状況である。

## 取組のきっかけ

民生委員の研修で三重県四日市市の社会福祉法人青山里会へ行き、地域の高齢者等とボランティアを繋ぐ活動「ちょっと手を貸して運動」を視察し、地域支え合い推進員の活動ヒントを得て、とりあえず公民会で話し合ってみることになった。

## 取組の目的

- 買い物困難な方への支援
- 地域での支え合い活動の推進

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 平成28年10月 | 民生委員の研修で三重県四日市市の社会福祉法人青山里会で実施されていた地域の高齢者等とボランティアを繋ぐ活動「ちょっと手を貸して運動」を視察した。 |
| 平成28年11月 | 第１回　役員会を公民会長宅で開催した。 |
| | 第２回　メンバーに班長を加えて話し合った。 |
| 平成29年３月 | 第３回　ふれあいサロンで役場の生活支援コーディネーターを招いて説明を受けた。 |
| | 第４回　公民会の総会で住民８０名ほどに説明をし、承認を得た。 |
| 平成29年４月 | 地域支え合い推進員の年４回の会議で総合事業や支え合い推進員について研修を受けた。 |
| 平成30年４月 | さつま町の在宅福祉アドバイザーが地域支え合い推進員として役職一元化が決定した。<br>生活支援型の訪問型サービスはまだ行わないことになった。 |
| 平成30年６月 | 西町福祉会議で町内の住民主体の生活支援活動を行っている事例や西町の要援護者、活動に係る保険の資料等をもとに話し合いを行い、団体名、料金体制、活動時間・内容を決定した。 |
| 平成30年８月 | 「西町ささえあい隊」が設立し、総合事業は行わないことにした。 |

## 活動の概要

〔支援内容〕

買い物、病院付き添い、公共機関付き添い、住居の修理等

〔頻度・利用人数・利用者負担〕

- 月に３件程度
- 利用料金は会員登録制で協力会員・利用会員とも年間1,000円

〔活動に関わった人・団体〕

元民生員の発起人、自治会、役場、社会福祉協議会

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 生活支援団体活動事業補助金の創設・既存団体への説明・交付申請受付・補助金交付　等

〔SCとしての役割〕

- 規約の例示
- ボランティア活動保険の手続支援
- 活動上の相談・支援
- 活動の普及・啓発

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 買い物に支援が必要な方の支援につながっている。
- 通院の付き添いにも対応できている。

〔課題〕

- 今から来てほしいというニーズへの対応が難しい。
- 一度に何ヶ所も立ち寄られる方の対応に時間がかかる。
- 公民会での活動なので、公民会未加入者への対応ができない。

- [ ] 生活支援
- [ ] 見守り
- [ ] 協議体
- [ ] 買物支援
- [ ] 配達
- [ ] その他
- [ ] 移動支援
- [x] 居場所づくり

# 32 よりあい処「幸」

NEW

さつま町　ほけん福祉課

## 地域の概要

さつま町は鹿児島県の北西部に位置しており、平成17年3月に旧宮之城町、旧鶴田町、旧薩摩町が合併しました。

よりあい処「幸」がある紫尾下公民会は、町の北部（旧鶴田町）の紫尾区にあります。

【紫尾下公民会】
全体人口/176人（高齢化率：50%）

## 取組のきっかけ

平成28年3月、北さつま農協紫尾出張所が閉鎖し、皆が気軽に立ち寄れ、立ち話のできる拠り所が減った。その農協跡地のすぐ隣に空き店舗（元商店）があった。持ち主の方が居場所づくりの趣旨を理解してくださり、使用許可をくださった。そのため、H30年度に支え合いマップづくりを開催し、民生委員さんから居場所づくりの提案を行い、公民会でやってみようということになった。

## 取組の目的

- 見守りをかねてのコミュニティづくり
- 閉じこもりがちな高齢者の外出のきっかけ（交流の場）
- ころばん体操の実施
- オレンジカフェ実施・チームオレンジ活動。

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 平成30年度 | 支え合いマップづくりの開催。 |
| 令和元年7月～11月 | 住民にて、空き店舗の片づけ。 |
| 令和2年3月 | 居場所づくりの開所に向けての話し合い。よりあい処「幸」と名前も決定。 |
| 令和2年11月1日 | よりあい処「幸」の開所。 |

## 活動の概要

空き店舗を活用した場所に地域住民の方々が集まり、ころばん体操やレクリエーション、オレンジカフェ（お茶飲み）などを実施している。地域の在宅介護支援センターにも運営協力をいただき、介護相談などにも対応してもらっている。

〔頻度・利用人数・利用者負担〕
・毎週月曜日、第1・第3水曜日に開催。
・平均20人程度が参加している。
・利用料金は1回200円。

〔活動に関わった人・団体〕
生活支援コーディネーター（社会福祉協議会）、市町村、在宅介護支援センター、公民会長
民生委員、地域住民

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕
- 活動における補助金交付
- SCとの情報共有

〔SCとしての役割〕
- 活動における相談受付
- 社協広報誌での活動紹介
- 活動の内容についての紹介DVDの作成
- 運営協力員との情報交換

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕
- 参加されている方々から「楽しみが増た。」「生きがいだ。」という声を聞く。
- 参加者が、自分のためによりあい処「幸」に行くんだと目的意識を持つことできている。

〔課題〕
男性の方も参加しやすい居場所づくり

☐生活支援 ☑見守り ☐協議体
☑買物支援 ☐配達 ☐その他
☐移動支援 ☐居場所づくり

# 33 「中種子町社会福祉協議会」による買い物支援

中種子町　地域福祉課

## 地域の概要

以前は各地区集落に商店があり、日常の買い物に支障がなかったが、人口減少、高齢化により各地区集落の商店が閉店し、公共交通機関を利用しての買い物移動を余儀なくされた。
また、公共交通機関はバスのみ。高齢化率は40%を超え、免許返納者も多く、移動が生活課題となっている。

## 取組のきっかけ

重層的支援体制整備事業への移行準備事業において６５歳以上の困りごとアンケート調査を実施。また、行政による買い物状況等に関するアンケート調査の結果を踏まえ、買い物に困っている高齢者が多いことが判明し、実施することとなった。

## 取組の目的

- 買い物困難な方への支援
- 高齢者の外出のきっかけ（ひきこもり予防）
- 見守り安否確認
- 課題解決に必要な団体へのつなぎ

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 令和２年２月～令和２年３月 | 行政の買い物状況等に関するアンケート調査を実施 |
| 令和２年９月～令和３年１月 | いきいき交流事業、独居高齢者への困りごとアンケート調査を実施 |
| | 上記２つのアンケート調査の結果、買い物に困っている方が多いことが判明 |
| 令和３年２月 | 町内の社会福祉法人へ買い物支援を打診するが実現せず |
| 令和３年２月 | →行政・地域包括支援センター・社協にて買い物支援の協議を実施 |
| 令和３年４月 | コミュニティバスを運用している行政課へ説明。<br>→アンケート調査で困っていると回答した方への案内、申請受付。<br>→買い物支援事業施行運転開始。<br>→地元スーパーへの説明、ポスター掲示依頼 |
| 令和３年４月 | 民生委員定例会にて説明。また、買い物移動に困っている方への案内依頼を実施 |

## 活動の概要

社会福祉協議会が買い物支援を実施

〔頻度・利用者数〕
・町内７校区を４つに分け、
　それぞれ月２回実施
・平均６名程度が利用している

〔買い物支援の流れ〕
　品揃えの良い午前中に買い物を実施
・事前申請（自宅を訪問し申請の手続き）
・実施日の前日に利用内容を確認
・実施日の当日は自宅まで迎えに行き、本人が希望する町内の商業施設まで送迎を行い買い物の支援する。本人から希望があれば袋詰め等も対応する 。

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- SCと定期的な情報共有
- SCが発行しているSC新聞で社会福祉協議会が行っている買い物支援事業を周知
- 買い物支援が必要な高齢者の把握
- 買い物支援が必要な高齢者へのつなぎ（利用促進）

〔SCとしての役割〕

- 集いの場での買い物支援の案内
- 買い物が困難な人の拾い上げ
- 支援中の困り事聞き取りも兼ねて、買い物支援対応者（パート職員）不在時には支援対応する
- 校区内で、様々な支援が必要な方を把握するための体制づくりの整備

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

普段交流の少ない住民同士が買い物をきっかけに定期的に顔を合わせ、コミュニケーションがとれる関係が生まれている。買い物支援だけでなく、コミュニティの構築、ゆるやかな見守りの一翼を担っている。
また、近年の生活背景に合わせ、令和６年度より申請条件を一部変更したことにより、申請者も増加、申請者より買い物困難者の情報提供を受ける件数も増え買い物困難者の拾い上げが以前よりできるようになった。
生活課題等の相談があった場合は関係機関へのつなぎを行っている。

〔課題〕

買い物支援事業の周知はまだまだ課題であり、引き続き、民生委員による個別訪問を通じた働きかけや生活支援コーディネーターを通して、集落内集いの場での案内や買い物困難者の拾い上げをお願いしている。

☐ 生活支援 ☑ 見守り ☑ 協議体
☐ 買物支援 ☐ 配達 ☐ その他
☑ 移動支援 ☑ 居場所づくり

# 34 星原校区協議体「たすけ愛体」の活動について

NEW

中種子町　地域福祉課

## 地域の概要

限界集落を含む8つの集落からなる星原校区は，種子島の中央にある中種子町内の北部に位置する。
海岸沿いの町で主な産業は農業。10年程前までは漁業も盛んだったが、後継者問題等で衰退。
人口398人、高齢化率56.5%の超少子高齢化が顕著な地域。

## 取組のきっかけ

生活支援体制整備事業を推進するにあたり、各校区に協議体「たすけ愛体」を立ち上げた。校区で結成されたメンバーで集まり、住み慣れた地域でいつまでも暮らしていけるような助け合いの地域づくりを目指して活動している。定期的に開催し、校区内の個人ニーズや地域課題を情報共有する際に、集落担当者より浜津脇集落のゴミ屋敷問題と竹之川集落の集いの場消滅という課題が上がってきた。

## 取組の目的

- ●助け合いの地域づくり
- ●日常生活での困りごとの支援
- ●SOSを出せない人の実態把握と支援の検討

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 令和元年11月 | 星原校区協議体「たすけ愛体」結成 |
| 令和2年～4年 | コロナ禍にて活動休止 |
| 令和5年1月 | 「たすけ愛体」再始動。おたすけ一覧表（＊）を75歳以上の全世帯へ配付<br>（＊緊急時の連絡先や民生委員、困ったときのサービス事業所の連絡先が記載された一覧表） |
| 令和6年3月<br>5月 | ○たすけ愛体開催時に浜津脇集落のゴミ屋敷問題の個人ニーズが上がる<br>◆たすけ愛体新メンバー（校区長）へ挨拶に伺った際に竹之川集落の集いの場消滅の情報提供あり |
| 令和6年7月 | 竹之川集落の集いの場の必要性を訴える声や、ゴミ屋敷周辺住民からのクレームもあり、たすけ愛体にて対応を協議<br>○民生委員でもあるたすけ愛体メンバーを中心にゴミ屋敷住民と話し合い、清掃の承諾を得て、日程調整を行う<br>◆竹之川集落住民に集いの場復活に向けての協力依頼するも協力得られず |
| 令和6年8月 | ○たすけ愛体メンバー3名、近隣住民4名の協力をもらい、清掃実施 |
| 令和6年9月 | ◆隣集落の集いの場参加者の協力を得て、竹之川集落の参加者も一緒に活動することとなる |
| 令和6年10月 | ◆隣集落への移動のニーズにサービスのマッチング |

## 活動の概要

●星原校区2層協議体「たすけ愛体」年に3～４回開催。
主要メンバーで校区内の地域課題を抽出し、解決に向けて話し合う。
〈協議体メンバー〉
校区長・郵便局長・民生委員・住民女性消防隊（独居高齢者訪問）・行政担当者・SCで構成。
今回の地域課題は浜津脇集落のゴミ屋敷と竹之川集落の居場所づくり。
○ゴミ屋敷清掃は協議体メンバーの近隣住民との良い関係性や働きかけにより実施できた。
◆竹之川集落の居場所づくりにおいては、集落での協力は得られなかったが、他集落への働きかけで隣集落の活動に週１回参加させてもらうこととなり、移動支援にも結び付いた。

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- ●SCとの定期的な情報共有
- ●協議体の活動把握と協力体制

〔SCとしての役割〕

- ●活動に関する連絡役
- ●地域課題・個人ニーズの把握
- ●関係各所との連携と協力体制づくり
- ●地域住民、協議体メンバーとの良い関係性づくり
- ●ニーズとサービスのマッチング

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- ●「たすけ愛体」が再始動し、2年が経過し、メンバーも協議体の役割を理解出来てきている。
- ●校区内の課題をメンバーで把握し、我が事ととらえ、解決の糸口を見つけようと積極的に動くことが出来ている。

〔課題〕

- ●毎年、協議体メンバーの入れ替わりがあるため、引継ぎが上手くいっていない。
- ●住民への協議体の周知、事業への理解。

☑ 生活支援 ☑ 見守り ☐ 協議体
☑ 買物支援 ☐ 配達 ☐ その他
☐ 移動支援 ☑ 居場所づくり

# 35 幾里はまゆう

龍郷町　保健福祉課

## 地域の概要

人口：166人
高齢化率：43.98%
生活の中で住民同士の繋がりによる助け合いがみられたり、集落行事がさかんで、子どもから高齢者まで一緒に参加されている。

## 取組のきっかけ

以前から、近隣の地域では見守り活動に取り組まれていたことをきかっけに、住民同士で自分たちの集落でできることを話し合い、見守り・生活支援を行う活動グループが発足し、現在はメンバー26名で活動を行っている。

## 取組の目的

- 高齢者の見守りや生活支援
- 高齢者の外出のきっかけや交流の場づくり
- 次世代と交流の場づくり
- 地域活性化

## これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---|---|
| 令和2年12月 | 活動に向けての話し合い |
| 令和3年1月 | 住民主体で見守り・支え合い活動を行うグループが発足 |
| | 毎月1回定例会を開催し、活動報告や困りごとの共有しながら活動している。 |
| 令和5年4月 | 活動協力者が新たに4名加入 |
| | ゆらい場の設置 |
| 令和6年４月 | 定期的に毎週金曜日（14時～16時）にゆらい処にて高齢者とのお茶会を開催し、交流の場となっている。認知症の方や、男性高齢者の方の参加もあり交流できている。 |
| 令和6年4月 | 以前より取り組んでいる夜間火の用心、パトロールを継続して実施している |
| 令和6年8月 | 80代高齢者宅、14世帯に七夕飾り、飲料水を配布。 |
| 令和6年12月 | 80代高齢者宅11世帯、正月用食料品、日用品配布 |

## 活動の概要

活動内容：生活支援（ゴミ出しや自宅の掃除）、ゆらい場「ゆらい処はまゆう」（毎週金曜日2時から4時迄交流の場として実施）、夜間火の用心、パトロール見守り、次世代との交流イベント、美化活動(公共トイレ掃除)

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 地域包括支援センター発行の「どぅくさだより」にて活動の周知
- 世話焼きさん（地域福祉推進員）との情報共有

〔SCとしての役割〕

- 活動状況の把握・情報発信
- 地域が自発的に活動していることの把握・連携と協力体制づくり

## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 高齢者とゆらい処でお茶会・交流をするっことで外出のきかっけづくりができ、社会参加の場となっている。
- 子どもの下校に合わせて、声掛け、見守りができている。交流イベントの開催で地域に活気が出た。ゆらい処へ男性が参加しやすい雰囲気になった。見守ったり、見守られたりの支援活動に繋がった。

〔課題〕

以前からのおつきあいで移動支援等ができているが、新規での依頼があった場合の今後の課題が予想される。